

# 医療的ケア児調査結果



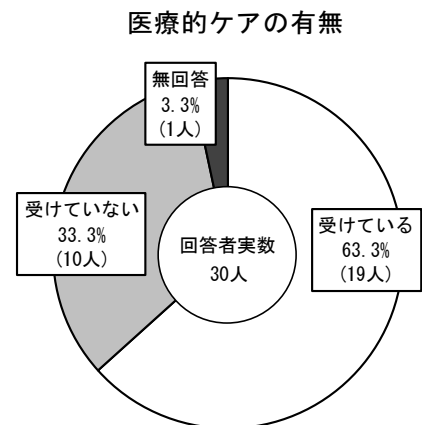
## ■ 在宅の医療的ケア児調査結果 ■

在宅の医療的ケア児調査については、過去3年間の障害福祉サービス支給決定に係る調査で把握した医療的ケアを受けている児童51人に対し、調査票を配布したところ30人から回答がありました。また、回答者のうち、調査時点で日常的な医療的ケアを「受けている」のは19人でした。

本調査は、ここで把握された19人の医療的ケア児について、集計分析を行っています。

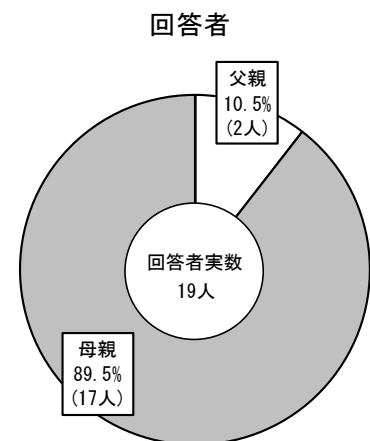
### ◎医療的ケアの有無

日常的な医療的ケアを受けているのは、回収した30人のうち、63.3%(19人)となっています。



### ◎回答者

本調査の回答者は、「母親」が89.5%(17人)と最も高く、次いで、「父親」が10.5%(2人)となっています。



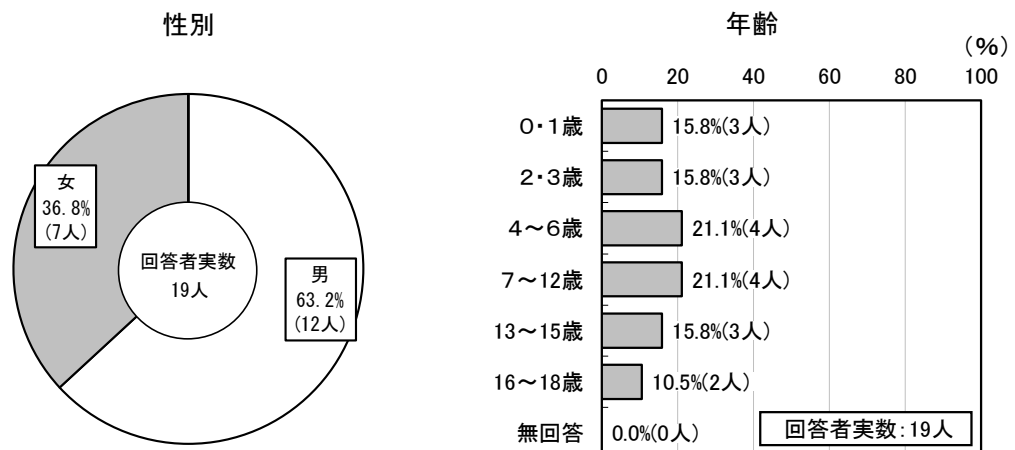
## 【障がい児共通調査】

### 1. 子どもの基本的なことについて

#### (1) 性別・年齢

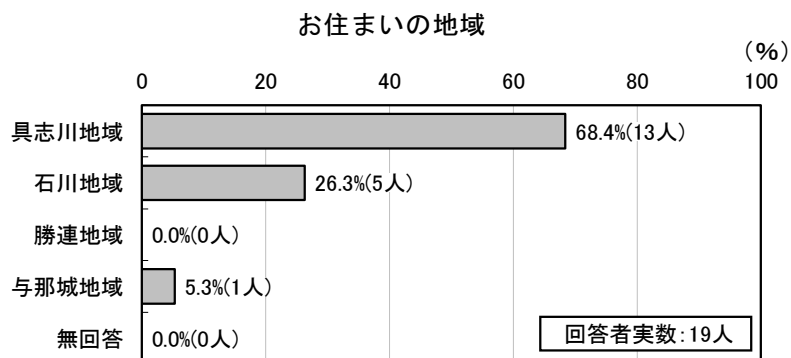
本調査における医療的ケア児の性別は、「男」が63.2% (12人) で6割を超えており、「女」が36.8% (7人) となっています。

年齢は、「4～6歳」と「7～12歳」がともに21.1% (4人) で高くなっています。



#### (2) お住まいの地域

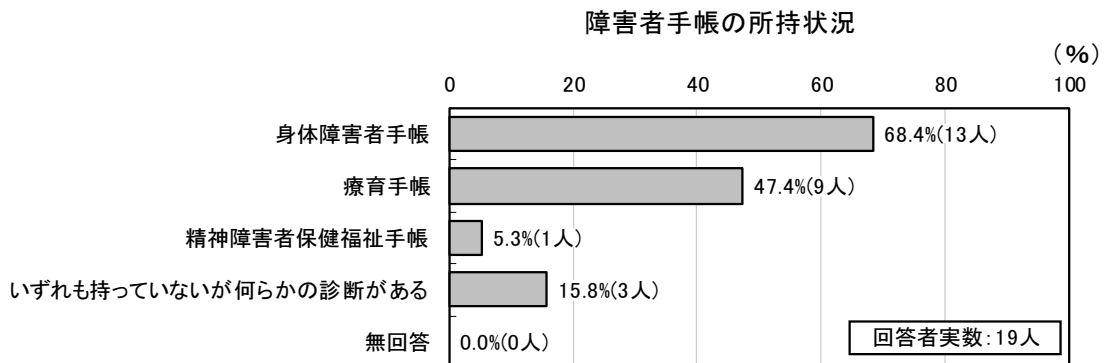
お住まいの地域については、「具志川地域」が68.4% (13人) と最も高く、次いで、「石川地域」が26.3% (5人)、「与那城地域」が5.3% (1人) となっています。



## 2. 障がいの状況について

### (1) 障害者手帳の所持状況（複数回答）

障害者手帳の所持状況については、「身体障害者手帳」が68.4% (13人)と最も高く、次いで、「療育手帳」が47.4% (9人)、「精神障害者保健福祉手帳」が5.3% (1人)、「いずれも持っていないが何らかの診断がある」が15.8% (3人)となっています。

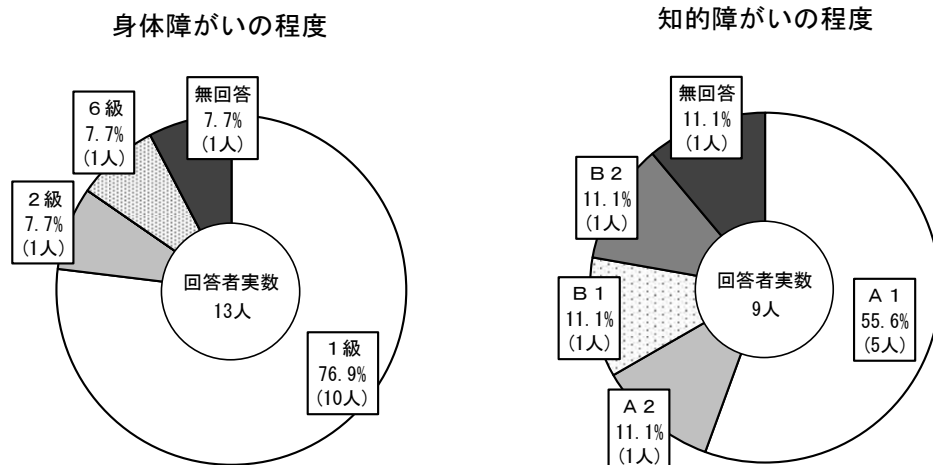


### (2) 障がいの程度

身体障害者手帳の所持についてみると、「1級」が76.9% (10人)と最も高く、次いで、「2級」と「6級」がともに7.7% (1人)となっています。また、「3級」、「4級」、「5級」、「7級」の回答はありませんでした。

療育手帳を所持する子の障がいの判定は、「A1」が55.6% (5人)、「A2」が11.1% (1人)であり、これらを合わせるとA判定の回答が66.7% (6人)となっています。「B1」と「B2」がともに11.1% (1人)で、B判定の回答は22.2% (2人)となり、A判定の回答が多く6割を占めます。

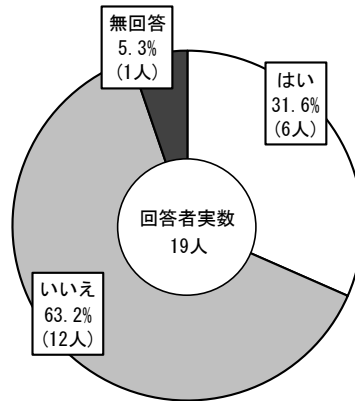
また、「精神障害者保健福祉手帳」を所持する子は1人で、「1級」となっています。



### (3) 発達障がいの診断の有無

発達障がいと診断されているかについては、「はい」が31.6% (6人)となっています。

発達障がいの診断の有無



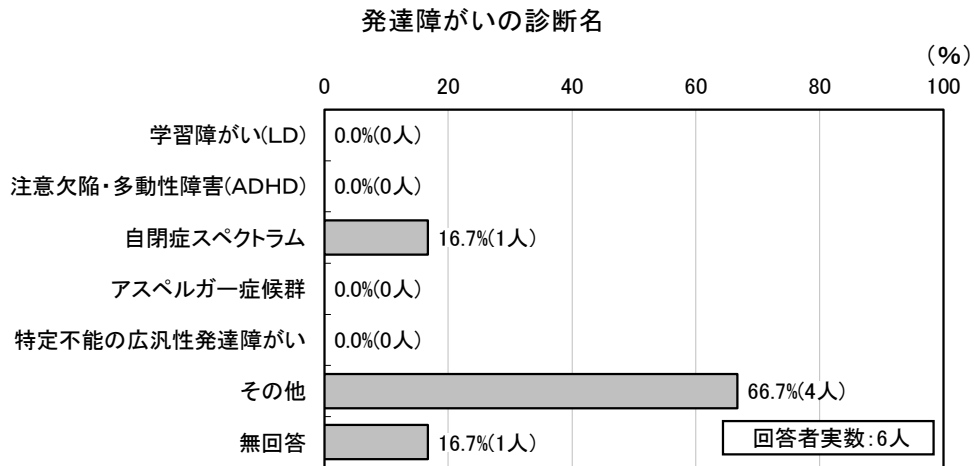
障害者手帳の所持状況別にみると、「はい」の割合は「いずれも持っていないが何らかの診断がある」が66.7% (2人)、「身体・知的」が40.0% (2人)、「知的のみ」が33.3% (1人)となっています。

発達障がいの診断の有無（手帳所持の状況別）

	回答者 実数	はい	いいえ	無回答
身体のみ	7人	0.0% (0人)	100.0% (7人)	0.0% (0人)
知的のみ	3人	33.3% (1人)	33.3% (1人)	33.3% (1人)
身体・知的	5人	40.0% (2人)	60.0% (3人)	0.0% (0人)
身体・知的・精神	1人	100.0% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
いずれも持っていないが何らかの診断がある	3人	66.7% (2人)	33.3% (1人)	0.0% (0人)

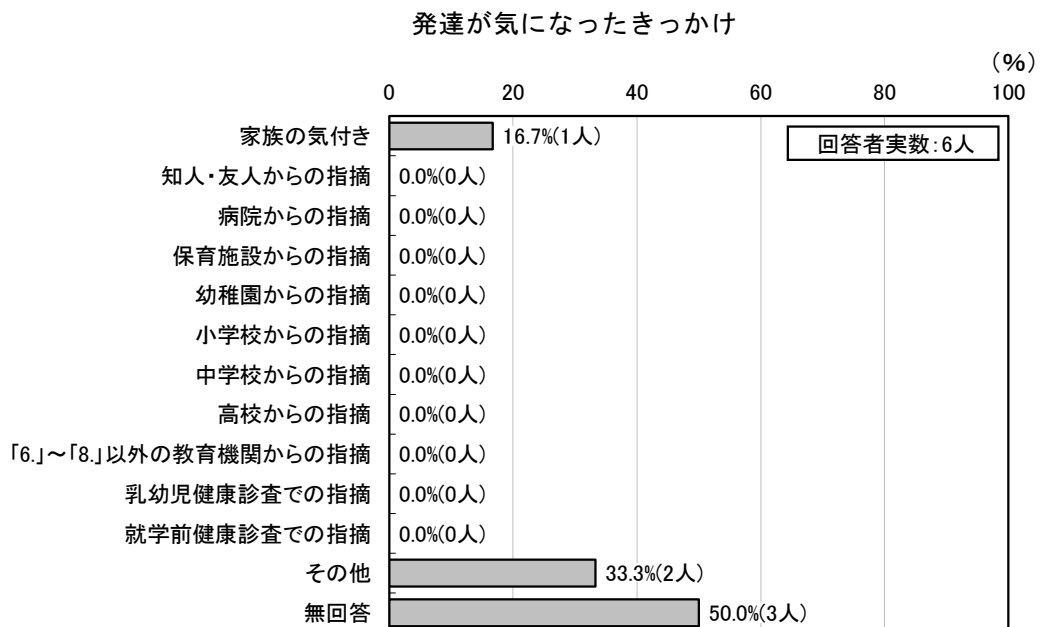
#### (4) 発達障がいの診断名（複数回答）

発達障がいの診断を受けている子の診断名については、「自閉症スペクトラム」が16.7%（1人）となっています。



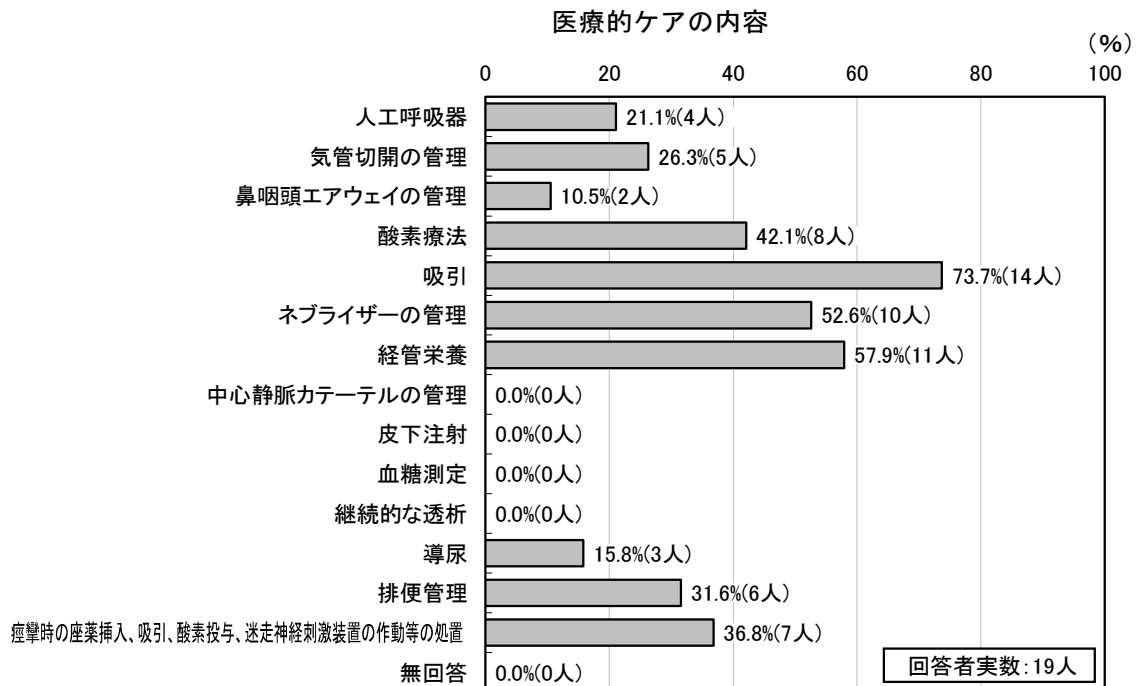
#### (5) 発達が気になったきっかけ

発達障がいの診断を受けている子の発達が気になったきっかけについては、「家族の気付き」が16.7%（1人）、「その他」が33.3%（2人）となっています。



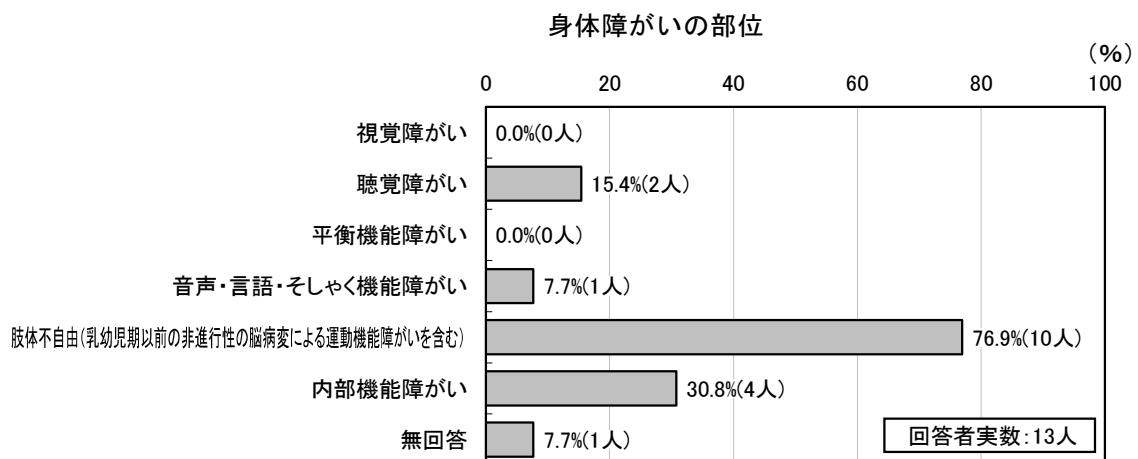
### (6) 医療的ケアの内容（複数回答）

医療的ケアの内容については、「吸引」が73.7% (14人)と最も高く、次いで、「経管栄養」が57.9% (11人)、「ネブライザーの管理」が52.6% (10人)、「酸素療法」が42.1% (8人)となっています。



### (7) 身体障がいの部位（複数回答）

身体障害者手帳を所持する子の手帳に記載されている障がいの部位は、「肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による運動機能障がいを含む)」が76.9% (10人)と最も高いほか、「内部機能障がい」も30.8% (4人)で高くなっています。そのほか、「聴覚障がい」が15.4% (2人)、「音声・言語・そしゃく機能障がい」が7.7% (1人)となっています。また、「視覚障がい」、「平衡機能障がい」の回答はありませんでした。





### (8) コミュニケーション手段（複数回答）

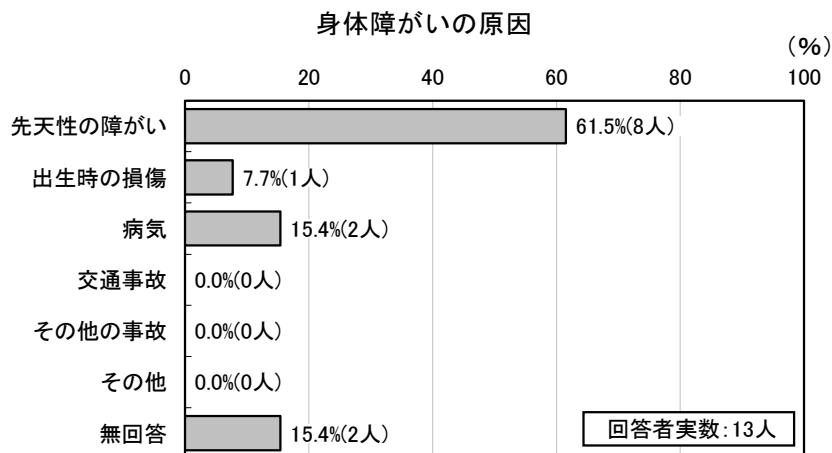
前項の身体障害者手帳を所持する子のうち、手帳に「聴覚障がい」または「音声・言語・そしゃく機能障がい」と記載されている子(3人)のコミュニケーション手段については、「補聴器や人工内耳等を使用」、「身ぶり・手ぶりで伝える」、「その他」が各1人となっています。

コミュニケーション手段

	人数
補聴器や人工内耳等を使用	1人
身ぶり・手ぶりで伝える	1人
その他	1人
回答者実数	3人

### (9) 身体障がいの原因

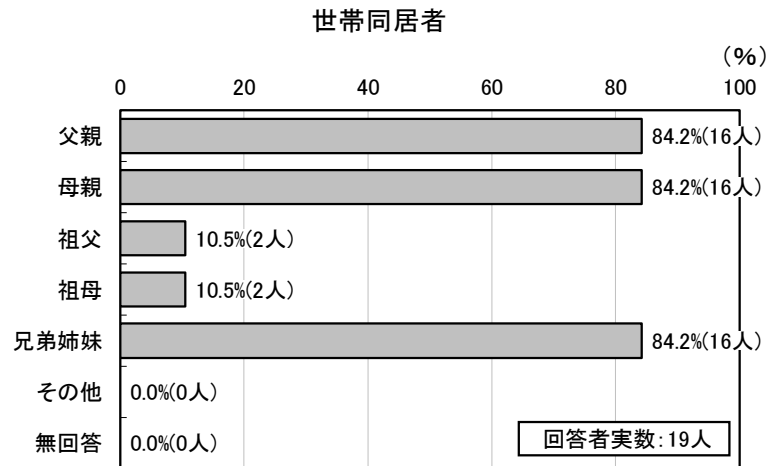
身体障害者手帳を所持する子の身体障がいの主な原因については、「先天性の障がい」が61.5% (8人)と最も高く、次いで、「病気」が15.4%(2人)、「出生時の損傷」が7.7%(1人)となっています。また、「交通事故」、「その他の事故」の回答はありませんでした。



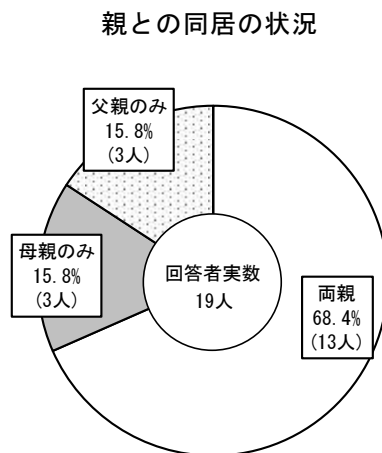
### 3. 家族や介助者について

#### (1) 世帯同居者（複数回答）

医療的ケア児と一緒に暮らしているのは、「父親」、「母親」、「兄弟姉妹」がそれぞれ84.2%（16人）と最も高く、「祖母」と「祖父」がともに10.5%（2人）となっています。

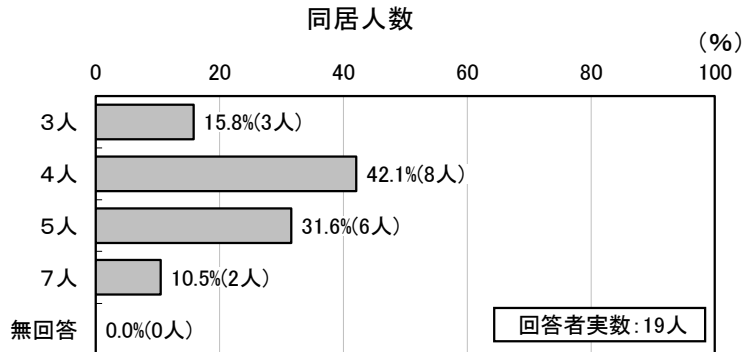


親との同居については、「両親」が68.4%（13人）と最も高く、次いで、「母親のみ」、「父親のみ」がともに15.8%（3人）となっており、31.6%（6人）がひとり親の家庭です。



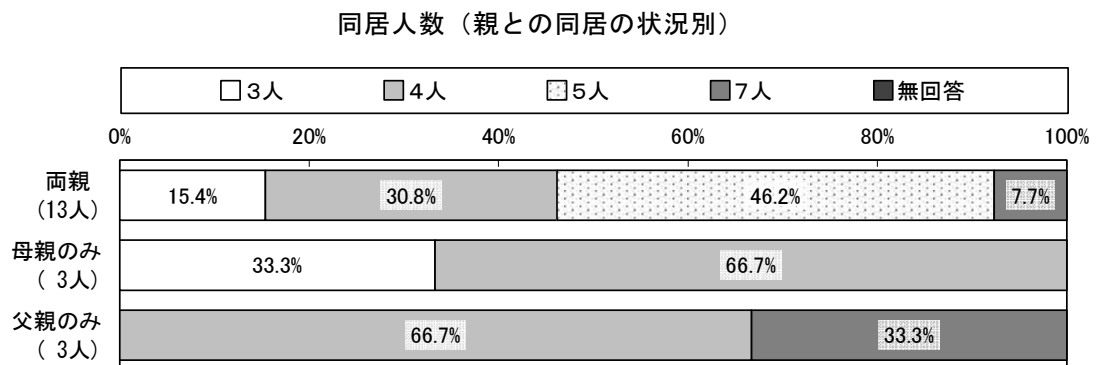
## (2) 同居人数

医療的ケア児を含めた世帯の同居人数は、「4人」が42.1% (8人)と最も高く、次いで、「5人」が31.6% (6人)、「3人」が15.8% (3人)、「7人」が10.5% (2人)となっています。



親との同居の状況別にみると、「両親」同居の世帯では、「5人」が46.2% (6人)と最も高く、次に「4人」「3人」「7人」と続きます。

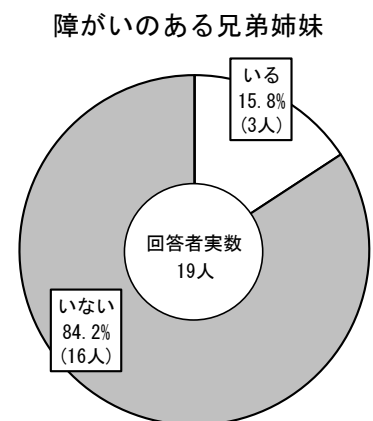
一方、ひとり親では「母親のみ」同居の世帯が3人で「4人」が66.7% (2人)、「3人」が33.3% (1人)、「父親のみ」同居の世帯も3人で「4人」が66.7% (2人)、「7人」が33.3% (1人)となっています。



## (3) 障がいのある兄弟姉妹

調査対象の医療的ケア児以外に、障がいの認定や難病の認定等を受けている兄弟姉妹の存在については、「いる」が15.8% (3人)となっています。

また、障がいの認定等を受けている兄弟姉妹の人数については、3人全員「1人」となっています。

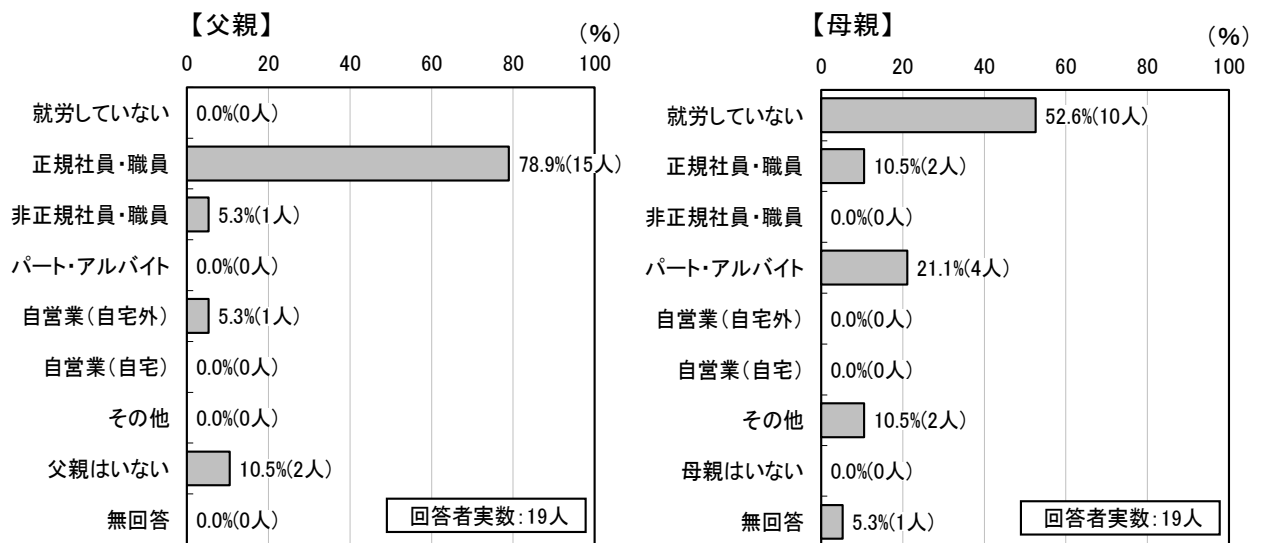


#### (4) 保護者の就労状況

保護者の就労状況について、「父親」では、「正規社員・職員」が78.9%(15人)と最も高く、次いで、「父親はいない」が10.5%(2人)、「非正規社員・職員」、「自営業(自宅外)」が5.3%(1人)となっています。

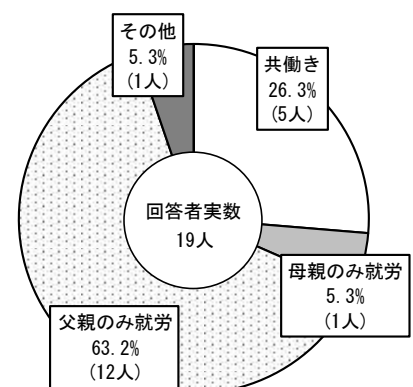
「母親」では、「就労していない」が52.6%(10人)であり、「パート・アルバイト」が21.1%(4人)、「正規社員・職員」と「その他」がともに10.5%(2人)となっています。

保護者の就労状況



また、「父親のみ就労」が63.2%(12人)と最も高く、次いで、「共働き」が26.3%(5人)、「母親のみ就労」、「その他」がそれぞれ5.3%(1人)となっています。

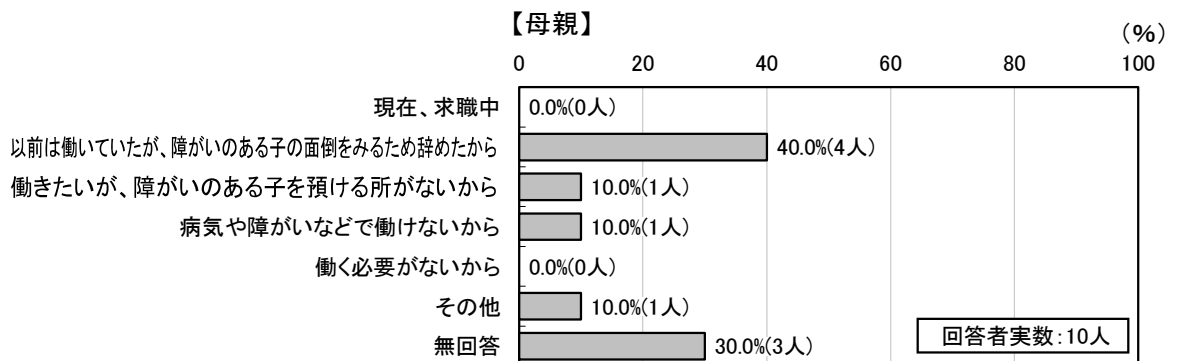
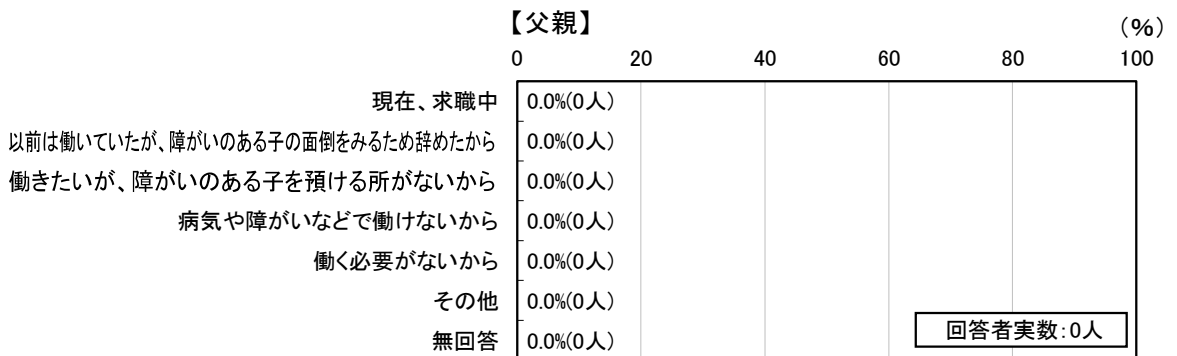
家庭の就労状況



### (5) 就労していない理由

前項で、「就労していない」と答えた保護者の就労していない理由について、母親では、「以前は働いていたが、障がいのある子の面倒をみるため辞めたから」が40.0% (4人)と最も高く、「働きたいが、障がいのある子を預ける所がないから」、「病気や障がいなどで働けないから」、「その他」がそれぞれ10.0% (1人)となっています。

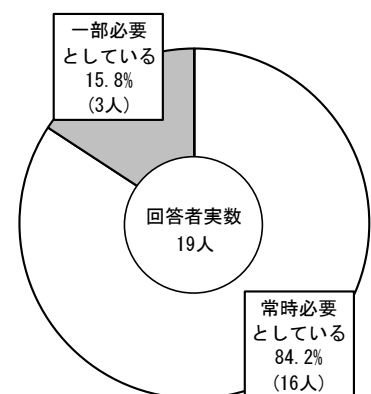
就労していない理由（両親）



### (6) 子どもの介助の必要性

医療的ケア児の普段の生活における介助の必要性については、「常時必要としている」が84.2% (16人)、「一部必要としている」が15.8% (3人)と全員が介助を必要としています。

子どもの介助の必要性



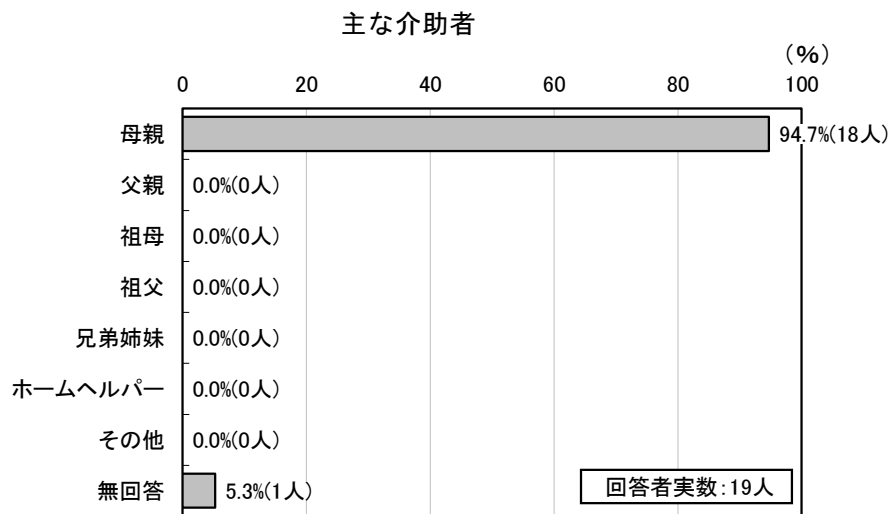
障害者手帳の所持状況別にみると、「常時必要としている」は「身体のみ」と「身体・知的」で100%となっているほか、サンプル数は少ないですが、「身体・知的・精神」でも100%となっています。

子どもの介助の必要性（手帳所持の状況別）

	回答者 実数	常時必要 としている	一部必要 としている	特に必要としない	無回答
身体のみ	7人	100.0% (7人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
知的のみ	3人	33.3% (1人)	66.7% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
身体・知的	5人	100.0% (5人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
身体・知的・精神	1人	100.0% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
いずれも持っていないが何らかの診断がある	3人	66.7% (2人)	33.3% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

### (7) 主な介助者

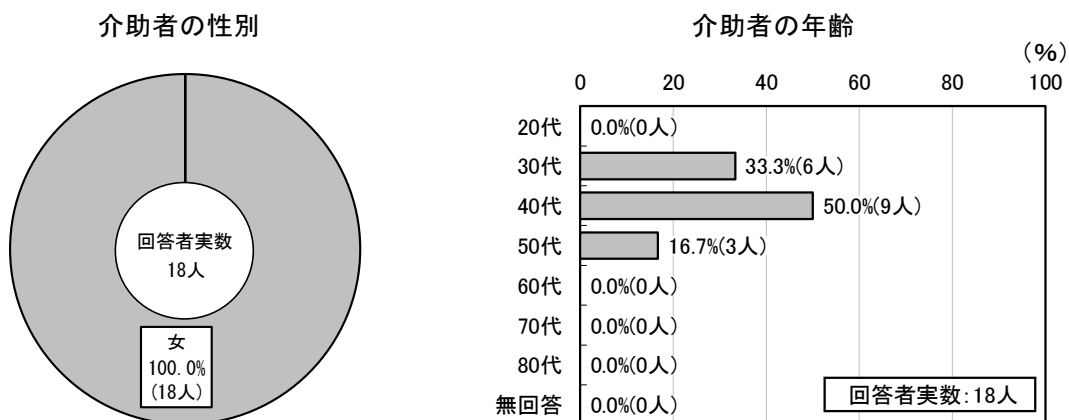
前項で、介助について「常時必要としている」、「一部必要としている」と回答のあった子について、主な介助者となっているのは、「母親」が94.7% (18人) と回答があった方すべてを占めています。また、「父親」の回答はありませんでした。



### (8) 介助者の性別と年齢

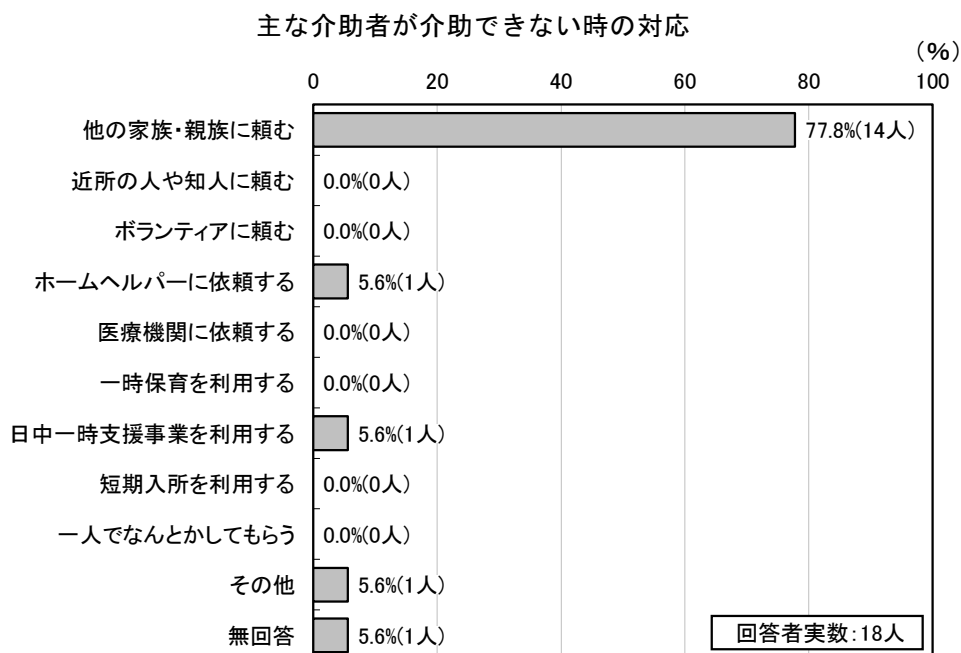
前項で、「ホームヘルパー」以外の介助者の性別については、「女」が100%となっています。

また、介助者の年齢は、「40代」が50.0%(9人)と最も高く、次いで、「30代」が33.3%(6人)で、この2つの年代が全体の83.3%(15人)を占めています。



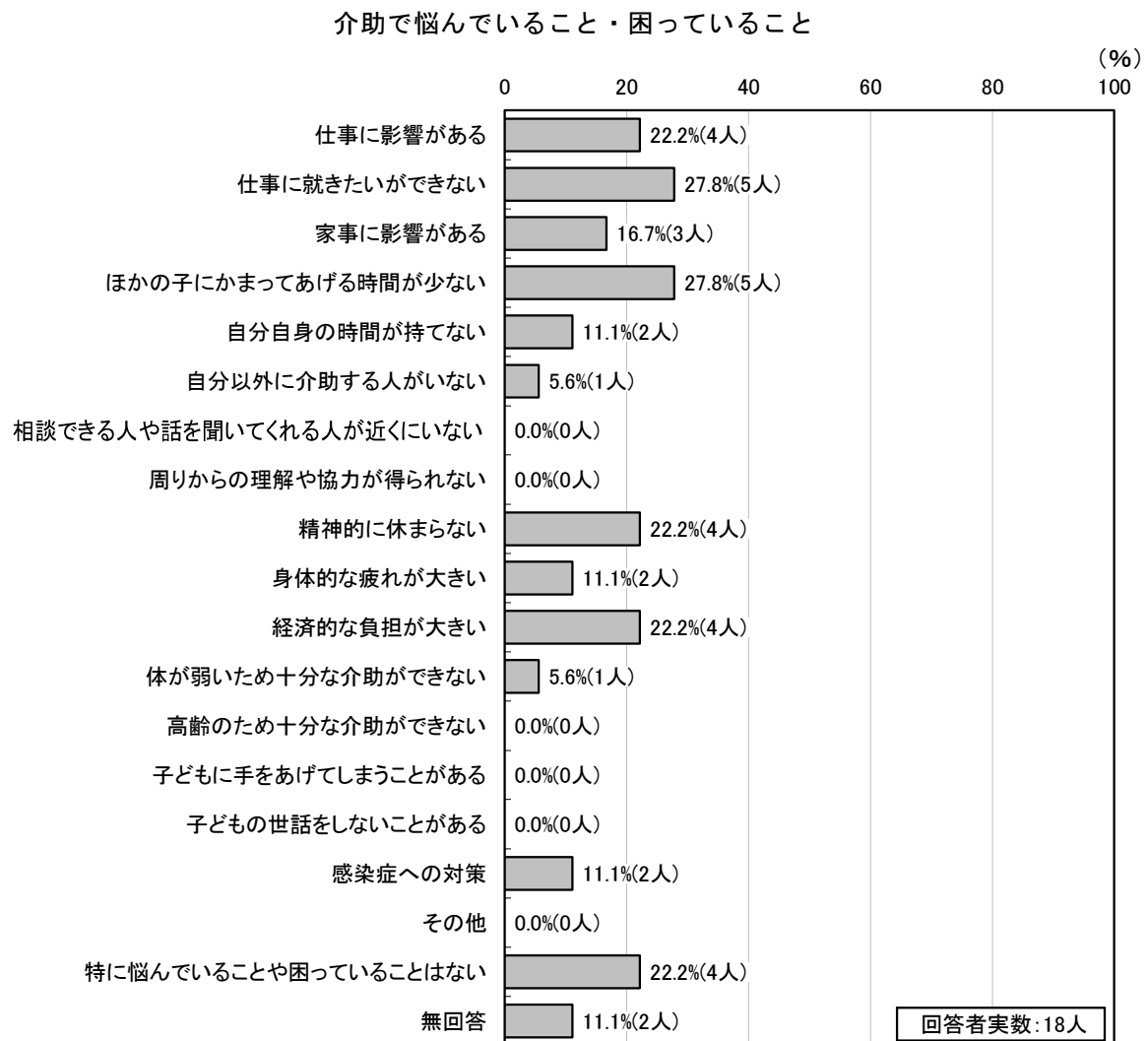
### (9) 主な介助者が介助できない時の対応

介助を常時または一部必要としている子の主な介助者が、病気や用事などで介助できない時の対応については、「他の家族・親族に頼む」が77.8%(14人)と最も高く、次いで、「ホームヘルパーに依頼する」、「日中一時支援事業を利用する」、「その他」がともに5.6%(1人)となっています。



(10) 介助で悩んでいること・困っていること（複数回答）

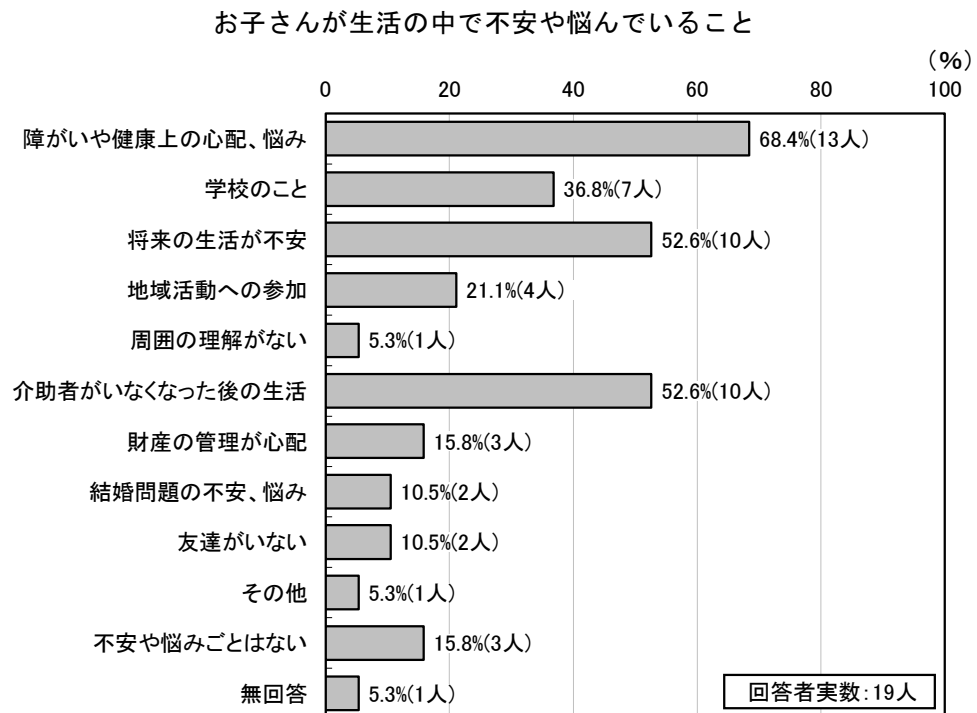
主な介助者が介助する上で悩んでいることや困っていることについては、「仕事に就きたいができない」、「ほかの子にかまっていあげることが少ない」がともに27.8%（5人）、次いで「仕事に影響がある」、「精神的に休まらない」、「経済的な負担が大きい」がそれぞれ22.2%（4人）となっています。





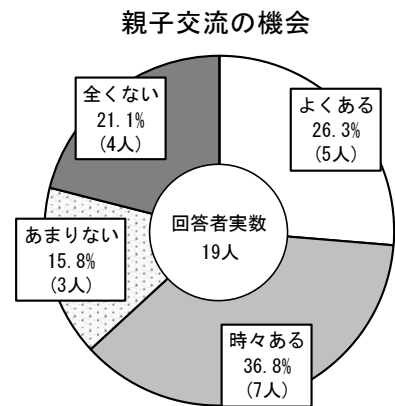
### (11) お子さんが生活の中で不安や悩んでいること（複数回答）

お子さんが生活の中で不安や悩んでいることについては、「障がいや健康上の心配、悩み」が68.4%(13人)と最も高く、次いで「将来の生活が不安」、「介助者がいなくなった後の生活」がともに52.6%(10人)となっています。



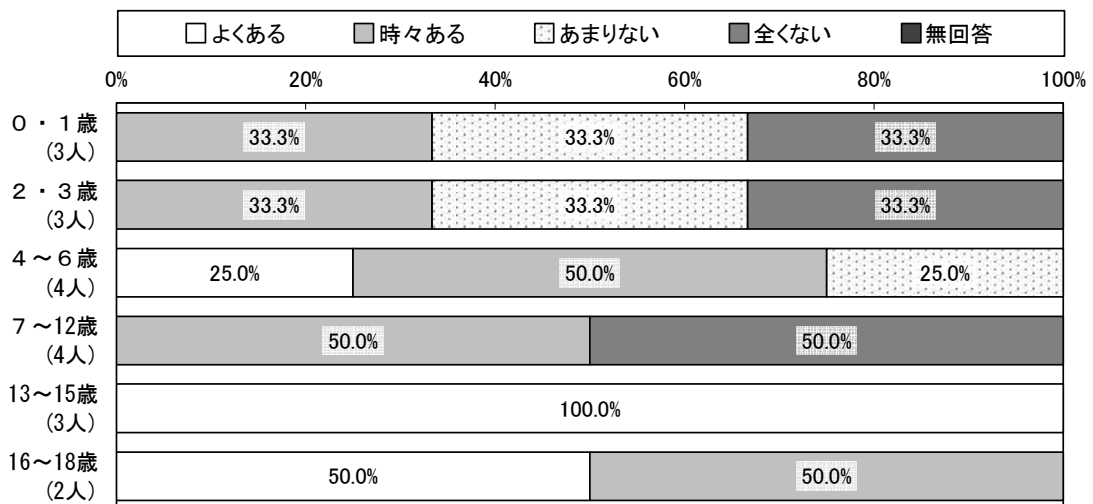
### (12) 親子交流の機会

同じ障がいのある子の親と交流する機会については、「よくある」が26.3% (5人)、「時々ある」が36.8% (7人)であり、これらを合わせると63.1% (12人)が交流する機会があると答えています。一方、「全くない」が21.1% (4人)となっています。



子どもの年齢別にみると、「よくある」は、「13～15歳」が100.0% (3人)と最も高く、「16～18歳」が50.0% (1人)となっています。「0・1歳」、「2・3歳」、「7～12歳」の回答はありませんでした。

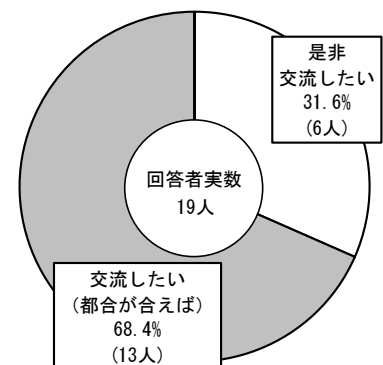
親子交流の機会（年齢別）



### (13) 今後の親子交流の意向

今後あるいは今後とも、同じ障がいのある子の親と交流することについては、「是非交流したい」が31.6% (6人)、「交流したい(都合が合えば)」が68.4% (13人)であり、全員が交流を望んでおり、「交流したいけどできない」、「交流したいと思わない」の回答はありませんでした。

今後の親子交流の意向

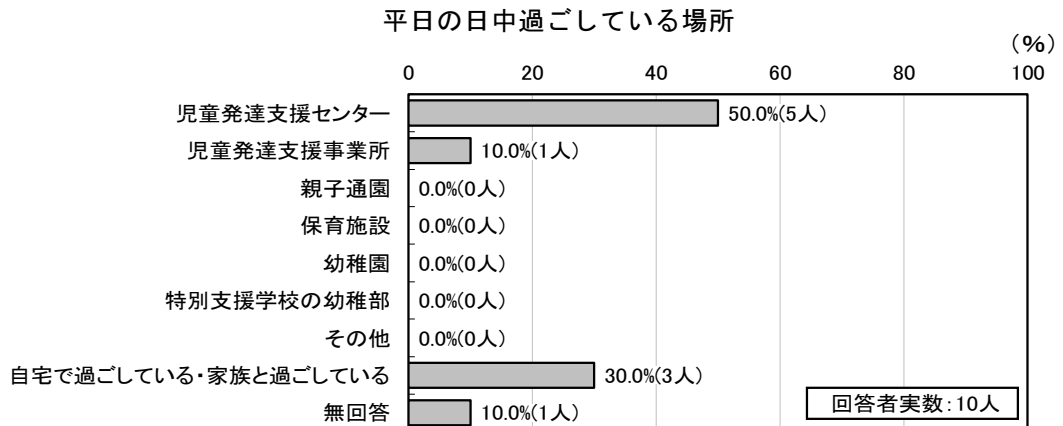


## 4. 保育・療育・教育について

### 就学前の児童について

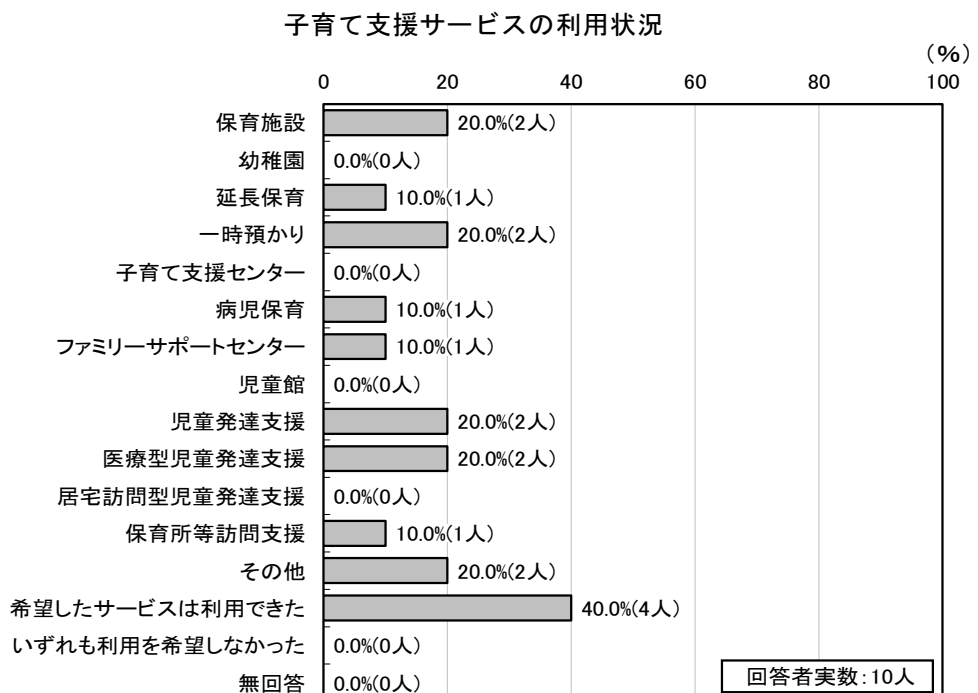
#### (1) 平日の日中過ごしている場所

就学前の子どもが平日の日中過ごしている場所は、「児童発達支援センター」が50.0% (5人)と最も高く、次いで「自宅で過ごしている・家族と過ごしている」が30.0% (3人)、「児童発達支援事業所」が10.0% (1人)となっています。



#### (2) 障がいにより利用・参加ができなかった子育て支援サービス（複数回答）

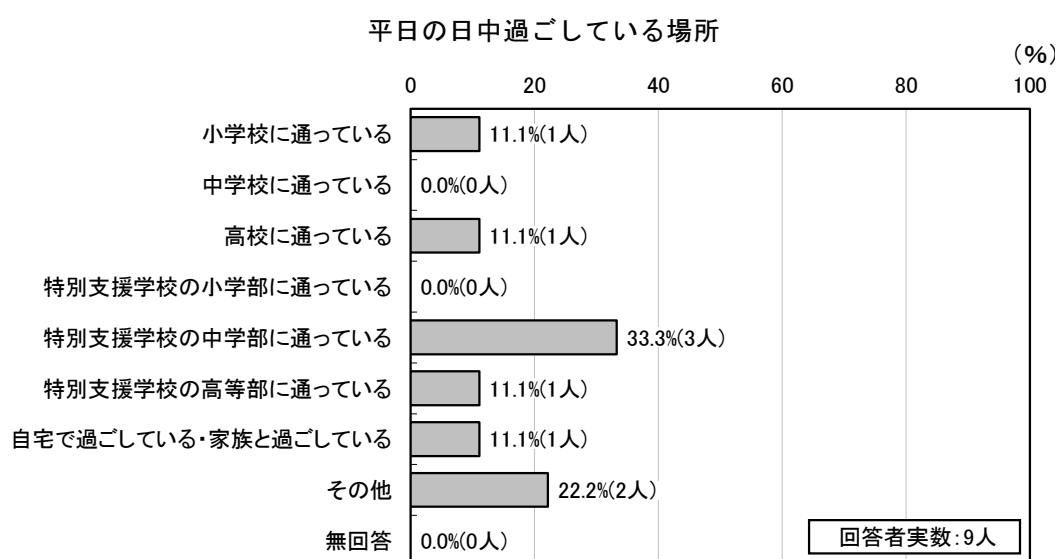
利用を希望したが、子どもの障がいに対応できないことを理由に、利用できなかった子育て支援サービスがあったかについては、「希望したサービスは利用できた」が40.0% (4人)となります。一方、利用を希望したが利用できなかったサービスについては、「保育施設」、「一時預かり」、「児童発達支援」、「医療型児童発達支援」、「その他」がそれぞれ20.0% (2人)、「延長保育」、「病児保育」、「ファミリーサポートセンター」、「保育所等訪問支援」がそれぞれ10.0% (1人)となっています。



## 就学後の児童について

### (3) 平日の日中過ごしている場所

就学後(小学生以上)の子が、平日の日中過ごしている場所は、「特別支援学校の中学部に通っている」が33.3%(3人)、「小学校に通っている」、「高校に通っている」、「特別支援学校の高等部に通っている」がそれぞれ11.1%(1人)となっており、平日の日中は学校に通っている子は、66.6%(6人)となっています。そのほか、「その他」が22.2%(2人)、「自宅で過ごしている・家族と過ごしている」が11.1%(1人)となっています。



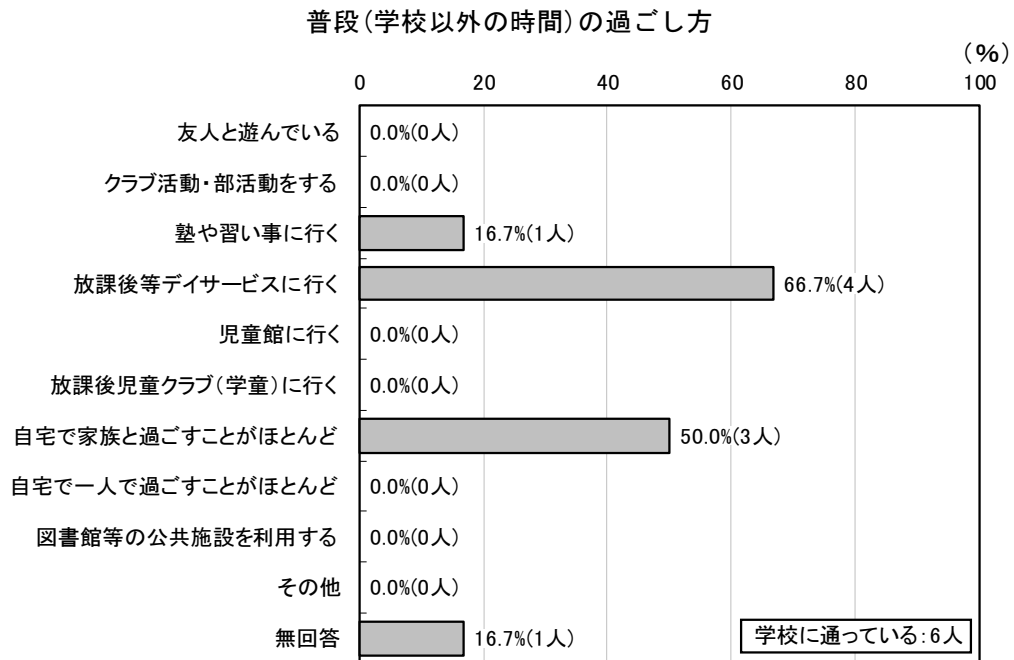
### (4) 在籍学級

小学校、高校に通っている子の在籍する学級については、2人の回答者全員が「特別支援学級」となり、「普通学級」の回答はありませんでした。

「特別支援学級」に在籍する児童生徒の障害者手帳の所持状況をみると、「いずれも持っていないが何らかの診断がある」が1人、「療育手帳」が1人となっています。

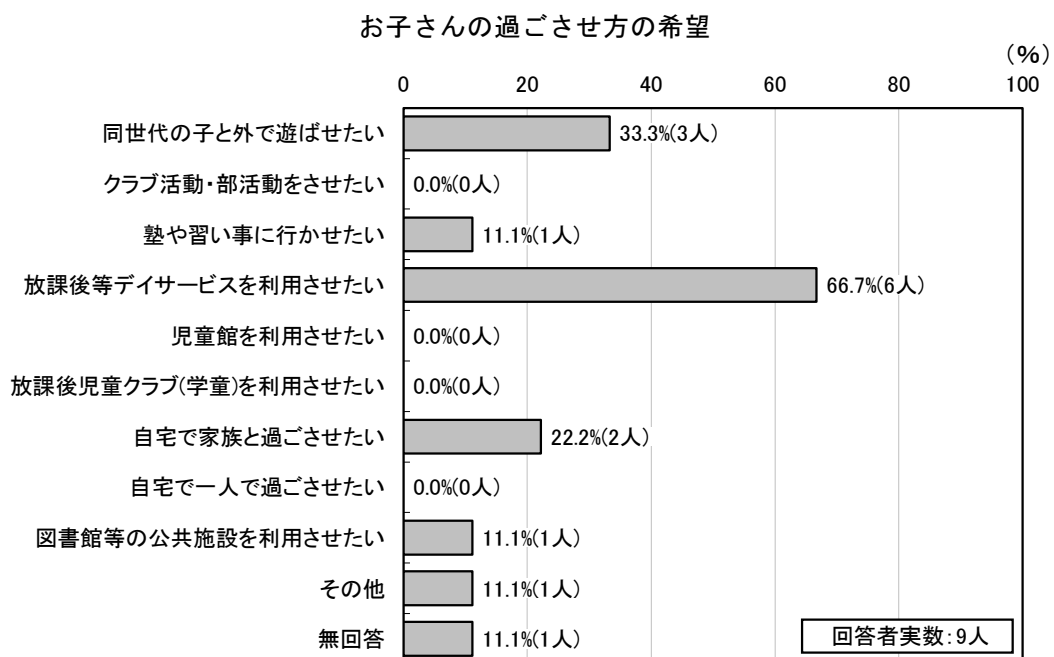
(5) 普段(学校以外の時間)の過ごし方(複数回答)

平日、学校に通っている医療的ケア児の普段(学校以外の時間)の過ごし方は、「放課後等デイサービスに行く」が66.7%(4人)、「自宅で家族と過ごすことがほとんど」が50.0%(3人)、「塾や習い事に行く」が16.7%(1人)となっています。



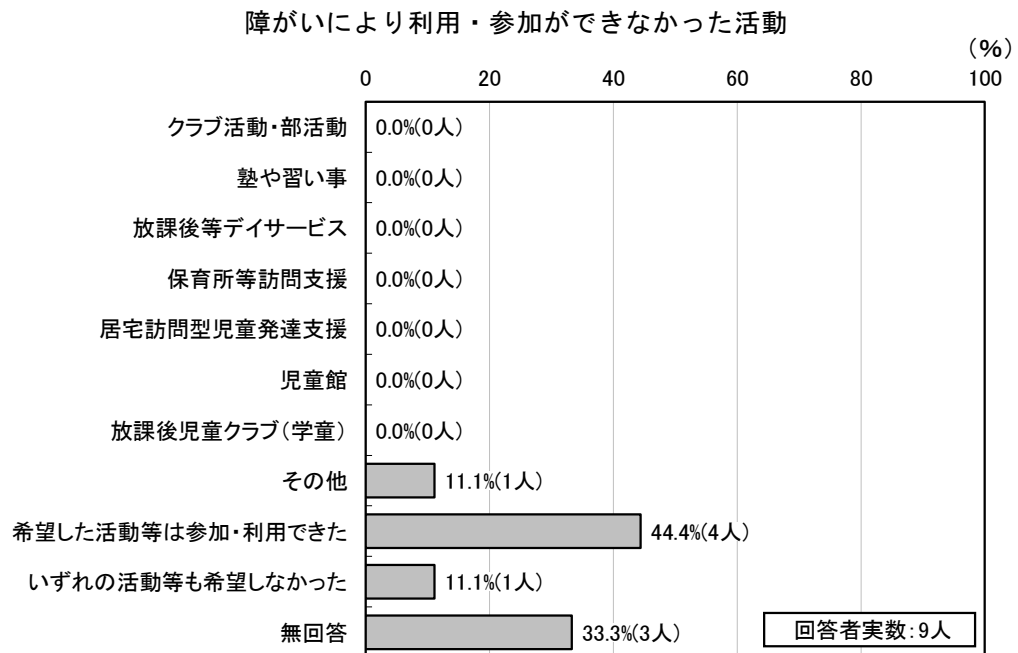
(6) お子さんの過ごさせ方の希望(複数回答)

お子さんの過ごさせ方の希望については、「放課後等デイサービスを利用させたい」が66.7%(6人)、「同世代の子と外で遊ばせたい」が33.3%(3人)、「自宅で家族と過ごさせたい」が22.2%(2人)、「塾や習い事に行かせたい」、「図書館等の公共施設を利用させたい」、「その他」がそれぞれ11.1%(1人)となっています。



### (7) 障がいにより利用・参加ができなかった活動（複数回答）

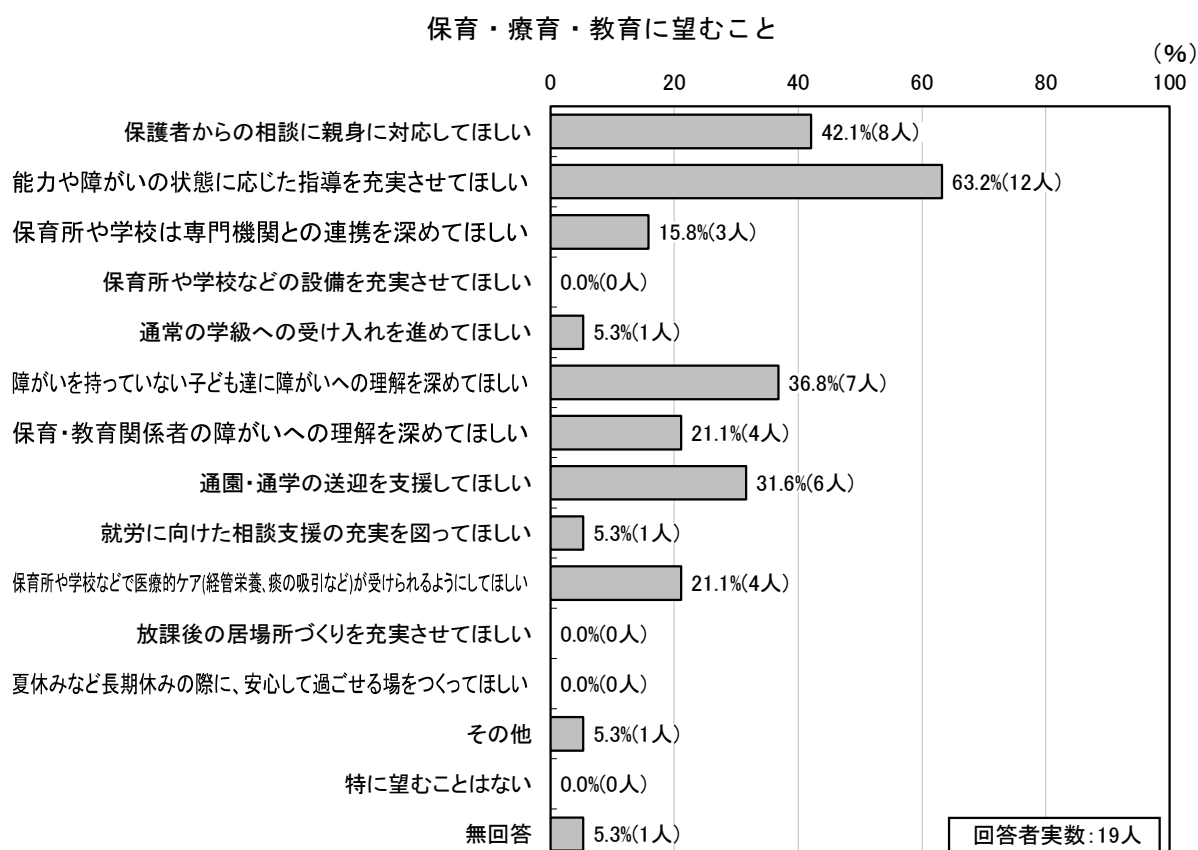
利用を希望したが、子どもの障がいに対応できないことを理由に、利用できなかった活動等があったかについては、「希望した活動等は参加・利用できた」が44.4%（4人）、「いずれの活動等も希望しなかった」が11.1%（1人）と半数以上を占めます。一方、利用・参加できなかった活動では、「その他」が11.1%（1人）となっています。



## 全ての医療的ケアが必要な児童について

### (8) 保育・療育・教育に望むこと（複数回答）

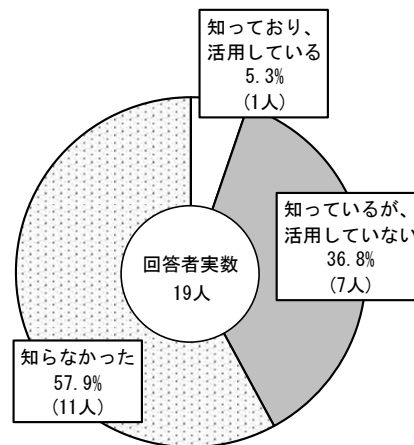
保護者が望む子どもの保育・療育・教育については、「能力や障がいの状態に応じた指導を充実させてほしい」が63.2%（12人）と6割を占め、次いで「保護者からの相談に親身に対応してほしい」が42.1%（8人）、「障がいを持っていない子ども達に障がいへの理解を深めてほしい」が36.8%（7人）、「通園・通学の送迎を支援してほしい」が31.6%（6人）、「保育・教育関係者の障がいへの理解を深めてほしい」、「保育所や学校などで医療的ケア（経管栄養、痰の吸引など）が受けられるようにしてほしい」がともに21.1%（4人）と続きます。



### (9) サポートノートの周知と活用状況

子どもがどのように成長してきたかを記録する、サポートノート「えいぶる」(県が推奨)については、「知らなかった」が57.9%(11人)と最も高く、次いで「知っているが、活用していない」が36.8%(7人)、「知っており、活用している」が5.3%(1人)と、活用している保護者はわずか1人となっています。

サポートノートの周知と活用状況



「知っており活用している」と答えた保護者(1人)が、活用して役に立ったと実感したことは、「サービスを利用する時」となっています。

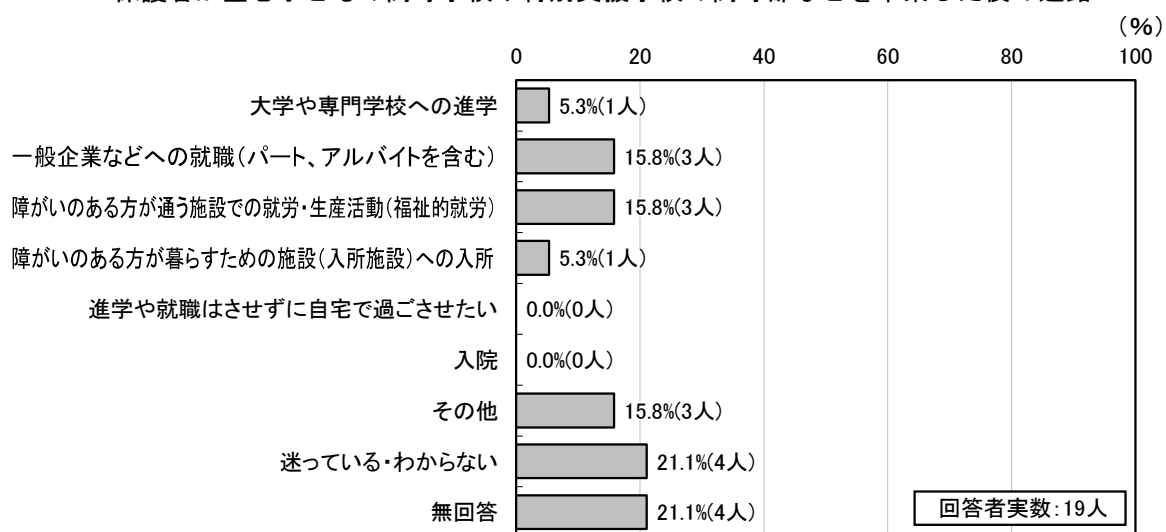


### (10) 保護者が望む子どもの高等学校や特別支援学校の高等部などを卒業した後の進路

保護者が望む子どもの高等学校や特別支援学校の高等部などを卒業した後の進路については、「一般企業などへの就職(パート、アルバイトを含む)」、「障がいのある方が通う施設での就労・生産活動(福祉的就労)」、「その他」がそれぞれ15.8%(3人)と高く、次いで「大学や専門学校への進学」、「障がいのある方が暮らすための施設(入所施設)への入所」が5.3%(1人)となり、大学等へ進学、一般企業への就職より障がいのある方が通う施設での就労や生産活動が高くなっています。

また、「迷っている・わからない」が21.1%(4人)と進学や一般企業への就職を望む保護者と同程度います。

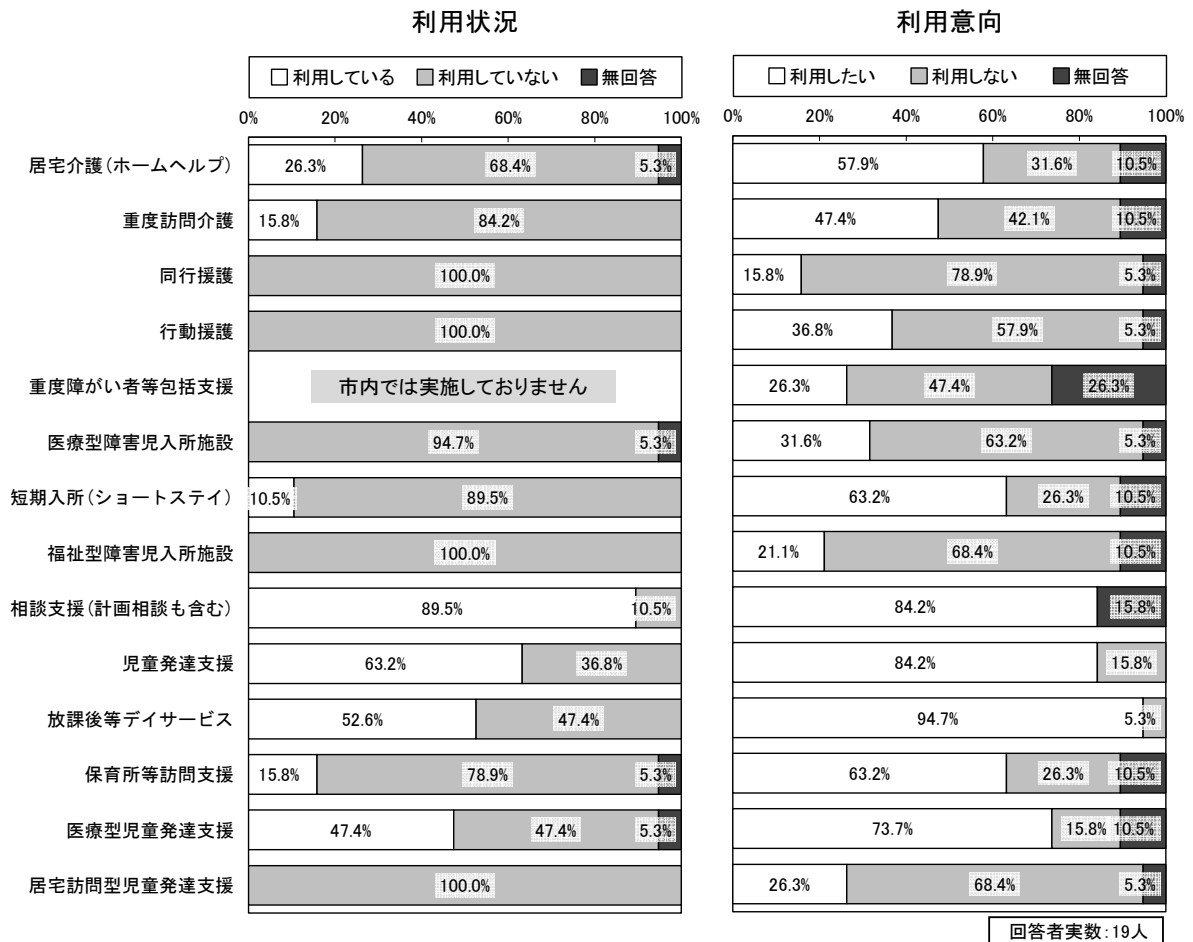
保護者が望む子どもの高等学校や特別支援学校の高等部などを卒業した後の進路



## 5. 障害福祉サービス等利用について

### (1) 障害福祉サービスの利用状況と利用意向

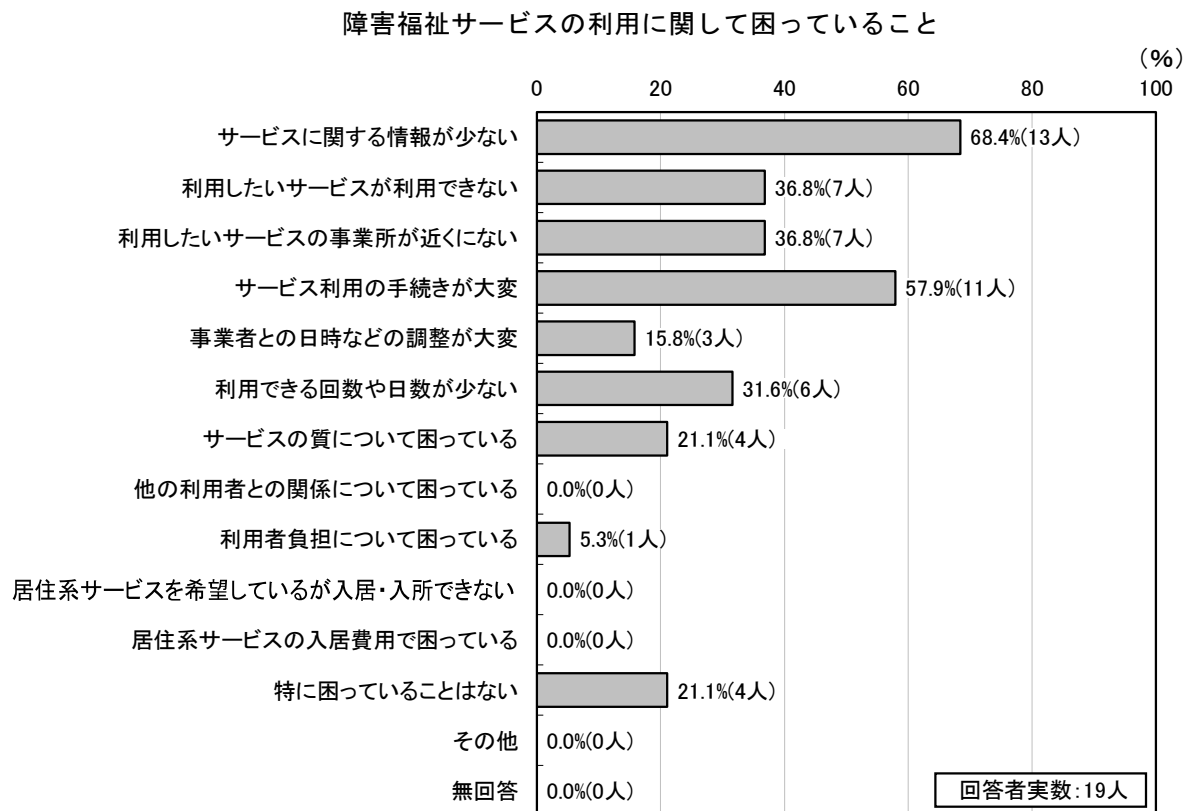
利用状況と利用意向をみると、「相談支援(計画相談も含む)」は継続利用の意向となり、そのほかのサービスも利用状況に対して、利用意向が多い傾向にあり、特に「短期入所(ショートステイ)」「保育所等訪問支援」、「放課後等デイサービス」が多くなっています。



(2) 障害福祉サービスの利用に関して困っていること（複数回答）

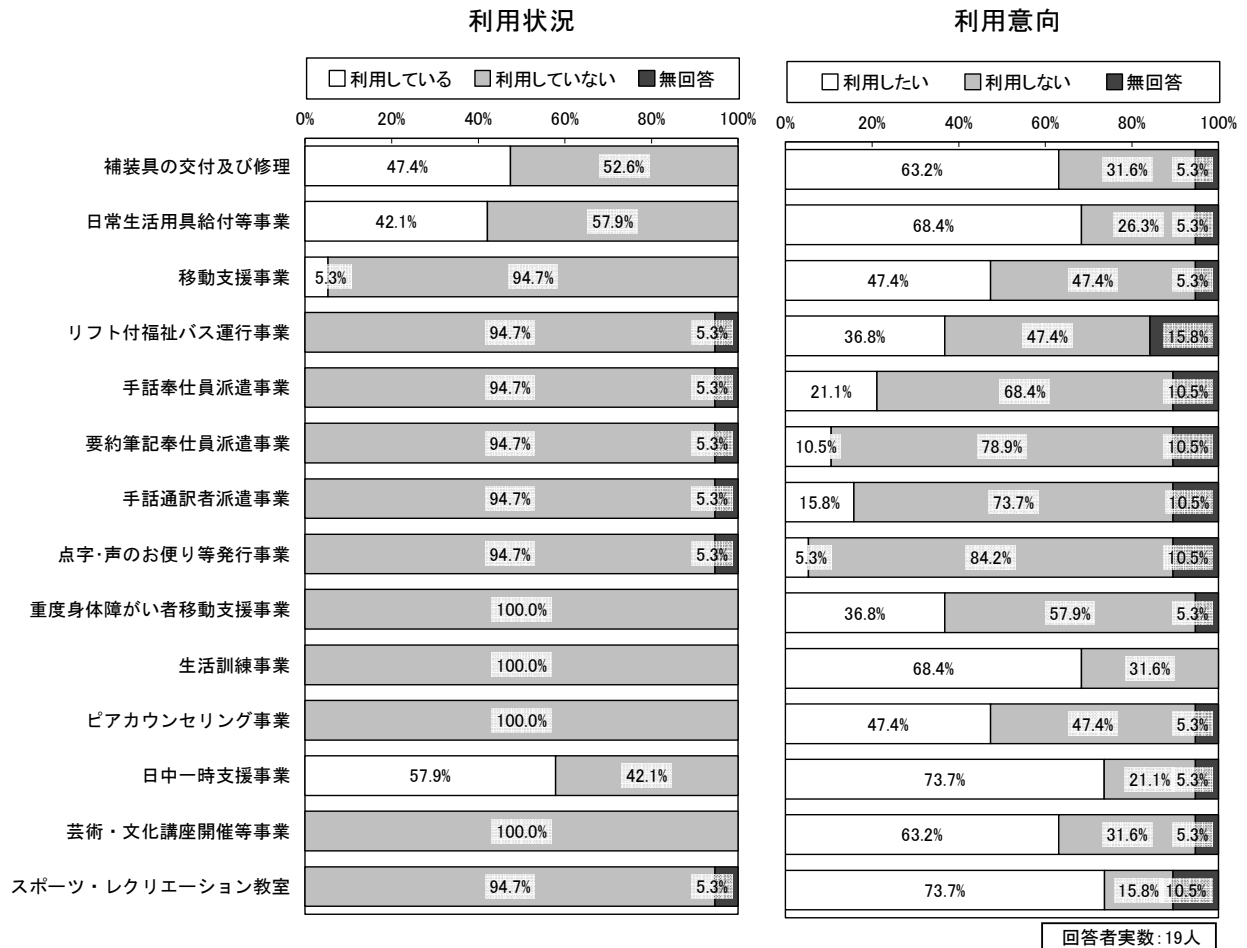
障害福祉サービスの利用に関して困っていることは、「サービスに関する情報が少ない」が68.4%（13人）となっています。次いで、「サービス利用の手続きが大変」が57.9%（11人）、「利用したいサービスが利用できない」と「利用したいサービスの事業所が近くにない」がそれぞれ36.8%（7人）と続きます。

一方、「特に困っていることはない」が21.1%（4人）とサービスを利用や利用する必要がない方は少なくなっています。



### (3) その他のサービスの利用状況と利用意向

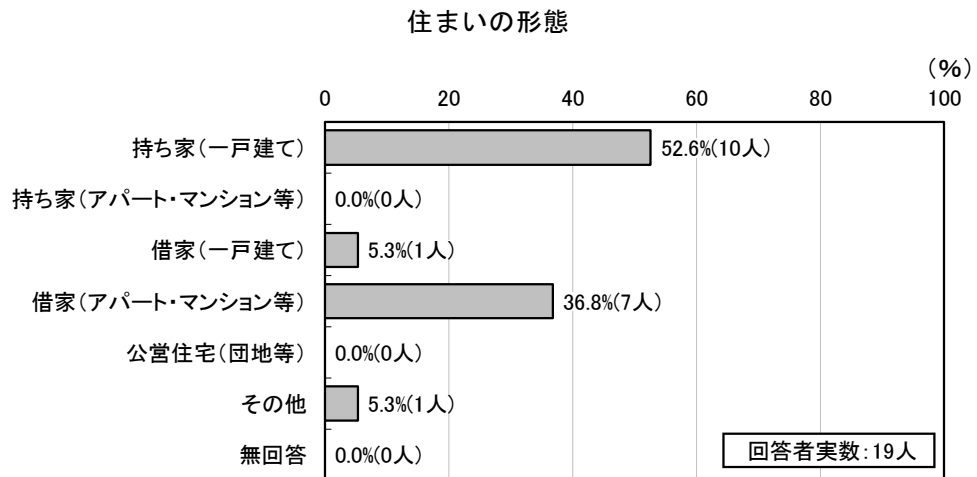
その他のサービスの利用についてみると、現在利用しているサービスは「補装具の交付及び修理」、「日常生活用具給付等事業」、「移動支援事業」、「日中一時支援事業」の4つのみとなっていますが、利用意向をみると、全てのサービスにおいて利用したいという回答がみられます。



## 6. 住まいについて

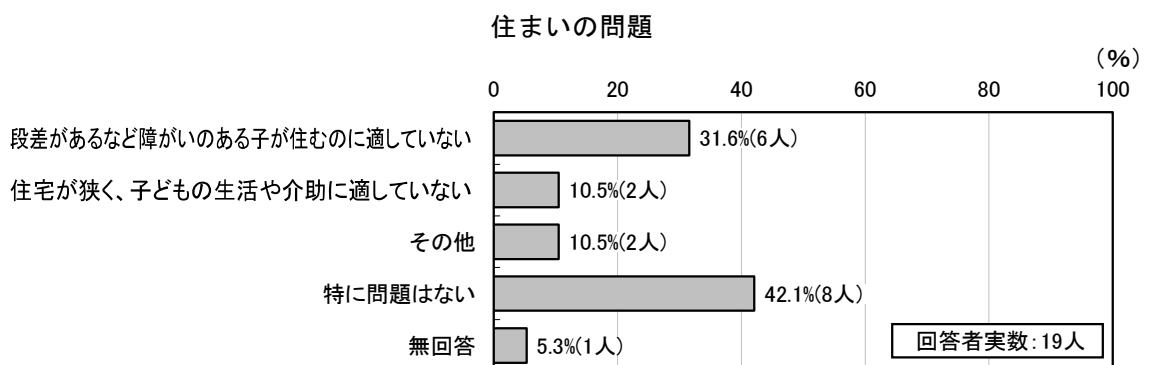
### (1) 住まいの形態

住まいの形態は、「持ち家(一戸建て)」が52.6%(10人)と最も高く、次いで、「借家(アパート・マンション等)」が36.8%(7人)、「借家(一戸建て)」と「その他」がともに5.3%(1人)となっています。



### (2) 住まいの問題

医療的ケア児にとっての住まいの問題としては、「特に問題はない」が42.1%(8人)と最も高くなっています。一方、問題があると回答があった中では「段差があるなど障がいのある子が住むのに適していない」が31.6%(6人)、「住宅が狭く、子どもの生活や介助に適していない」と「その他」がともに10.5%(2人)となっています。

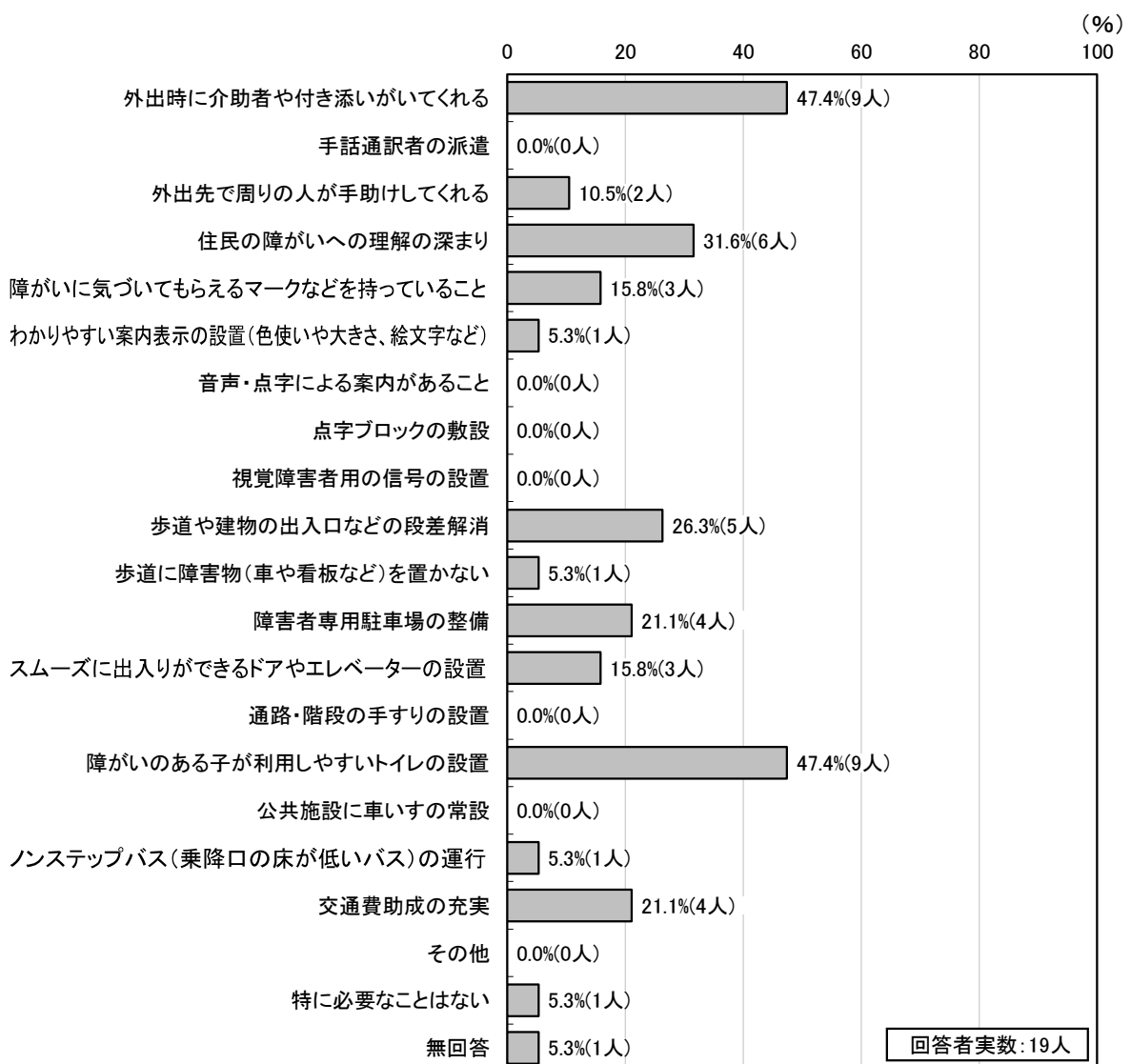


## 7. 外出について

### (1) 外出しやすくなるために必要なこと（複数回答）

医療的ケア児が外出しやすくなるために、必要と思うことについては、「外出時に介助者や付き添いがいてくれる」と「障がいのある子が利用しやすいトイレの設置」が47.4%（9人）と最も高く、次いで「住民の障がいへの理解の深まり」が31.6%（6人）、「歩道や建物の出入口などの段差解消」が26.3%（5人）、「障害者専用駐車場の整備」、「交通費助成の充実」がともに21.1%（4人）、「障がいに気づいてもらえるマークなどを持っていること」と「スムーズに出入りができるドアやエレベーターの設置」がそれぞれ15.8%（3人）となっています。

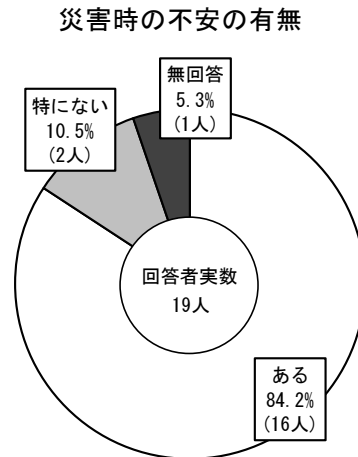
外出しやすくなるために必要なこと



## 8. 災害時の避難について

### (1) 災害時の不安の有無

台風や地震などの災害時における、医療的ケア児の避難については、不安が「ある」が84.2% (16人) とほとんどの方が不安を感じています。



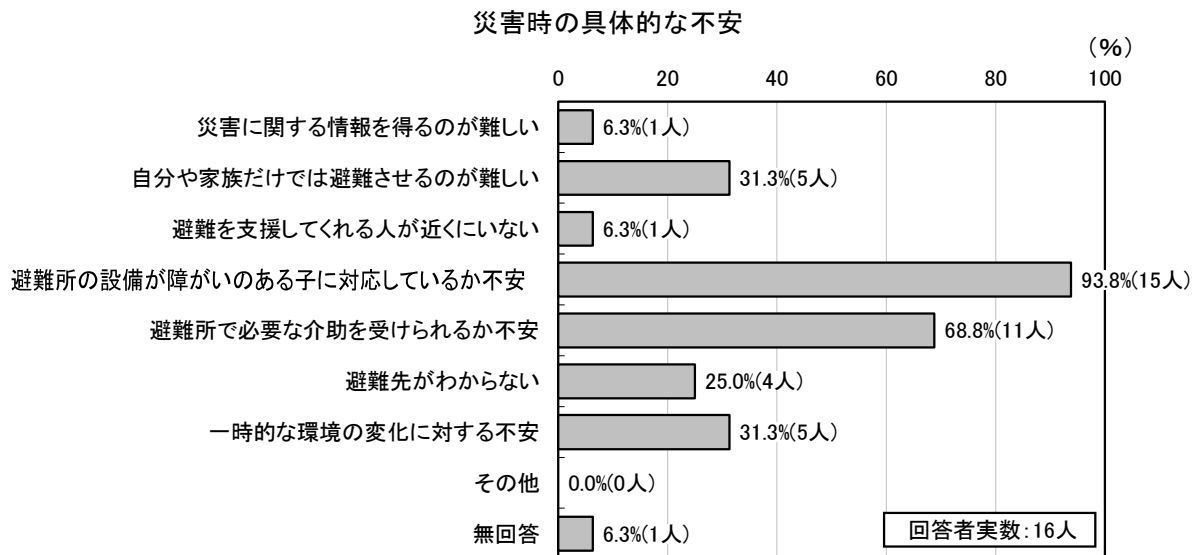
障害者手帳の所持状況別にみると、不安が「ある」は、「身体のみ」「知的のみ」「身体・知的・精神」で100%が回答しています。「身体・知的」でも80.0% (4人) で、ほとんどの方が不安を持っていることがわかります。

#### 災害時の不安の有無 (手帳所持の状況別)

	回答者 実数	ある	特にない	無回答
身体のみ	7人	100.0% (7人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
知的のみ	3人	100.0% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
身体・知的	5人	80.0% (4人)	20.0% (1人)	0.0% (0人)
身体・知的・精神	1人	100.0% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
いずれも持っていないが何らかの診断がある	3人	33.3% (1人)	33.3% (1人)	33.3% (1人)

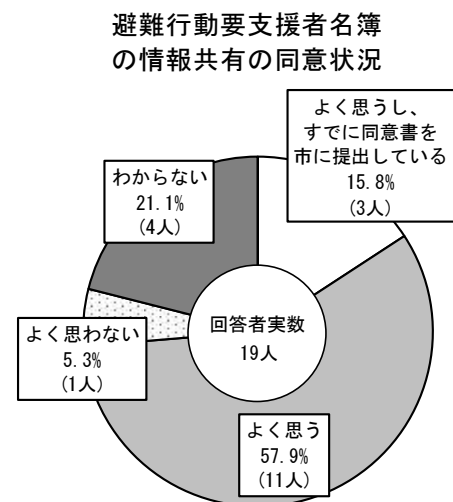
## (2) 災害時の具体的な不安（複数回答）

前項で、災害時に不安が「ある」と答えた保護者の具体的な不安については、「避難所の設備が障がいのある子に対応しているか不安」が93.8%（15人）と最も高く、次いで、「避難所で必要な介助を受けられるか不安」が68.8%（11人）、「自分や家族だけでは避難させるのが難しい」と「一時的な環境の変化に対する不安」が31.3%（5人）となっています。



## (3) 避難行動要支援者名簿の情報共有の同意状況

災害時に備えるために、「避難行動要支援者名簿」の情報を普段から共有することへの同意については、「よく思うし、すでに同意書を市に提出している」が15.8%（3人）、「よく思う」が57.9%（11人）であり、これらを合わせると73.7%（14人）と7割を超える方が名簿の情報共有が必要と思っています。そのほか、「よく思わない」が5.3%（1人）、「わからない」が21.1%（4人）となっています。



## (4) 名簿情報の共有について良く思わない理由

前項で、「避難行動要支援者名簿」の情報を普段から共有することへの同意について「よく思わない」と答えた1人の理由については、「個人情報を提供することに抵抗感があるため」となっています。



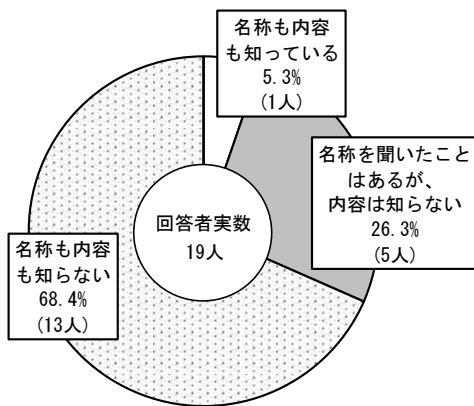
## 9. 権利擁護について

### (1) 「障害者差別解消法」・「合理的配慮」の周知状況

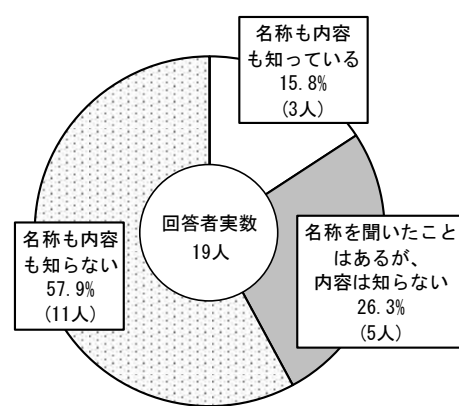
「障害者差別解消法」については、「名称も内容も知らない」が68.4% (13人)と高く、次いで、「名称を聞いたことはあるが、内容は知らない」が26.3% (5人)で、ほとんどの保護者が知らない状況にあります。一方、「名称も内容も知っている」は5.3% (1人)となっています。

「障害者差別解消法」で定める「合理的配慮」についても、「名称も内容も知らない」が57.9% (11人)と高く、「名称を聞いたことはあるが、内容は知らない」が26.3% (5人)、「名称も内容も知っている」が15.8% (3人)となっています。

「障害者差別解消法」の周知状況



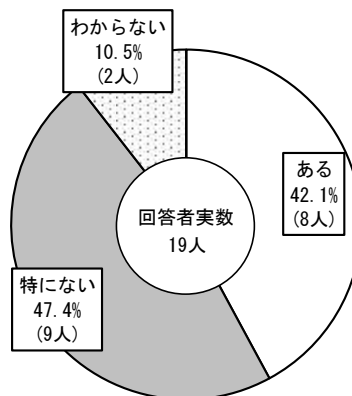
「合理的配慮」の周知状況



### (2) 差別や嫌な思いの経験

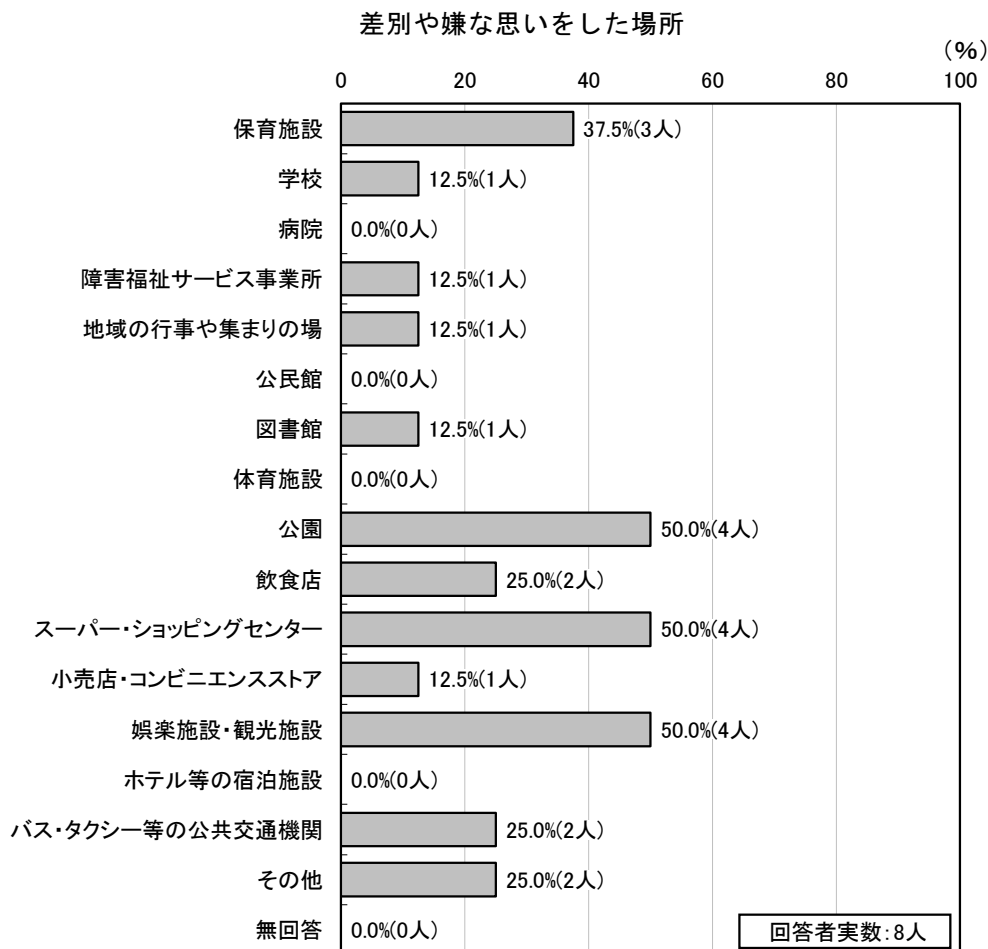
障がいがあることで、保護者や子どもが差別や嫌な思いをしたことがあるかについては、「特にない」が47.4% (9人)と高く、次いで「ある」が42.1% (8人)、「わからない」が10.5% (2人)となっています。

差別や嫌な思いの経験



### (3) 差別や嫌な思いをした場所（複数回答）

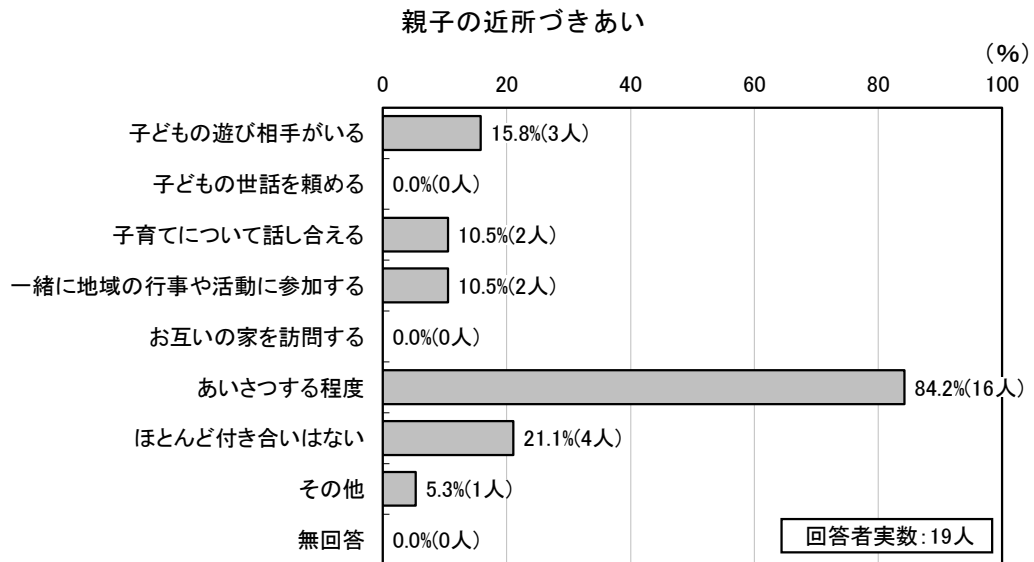
前項で、障がいがあることで差別や嫌な思いをしたことが「ある」と答えた、その場所については、「公園」、「スーパー・ショッピングセンター」、「娯楽施設・観光施設」がそれぞれ50.0%（4人）と最も高く、次いで「保育施設」が37.5%（3人）、「飲食店」、「バス・タクシー等の公共交通機関」、「その他」がそれぞれ25.0%（2人）、「学校」、「障害福祉サービス事業所」、「地域の行事や集まりの場」、「図書館」、「小売店・コンビニエンスストア」が12.5%（1人）となっています。



## 10. 地域での暮らしについて

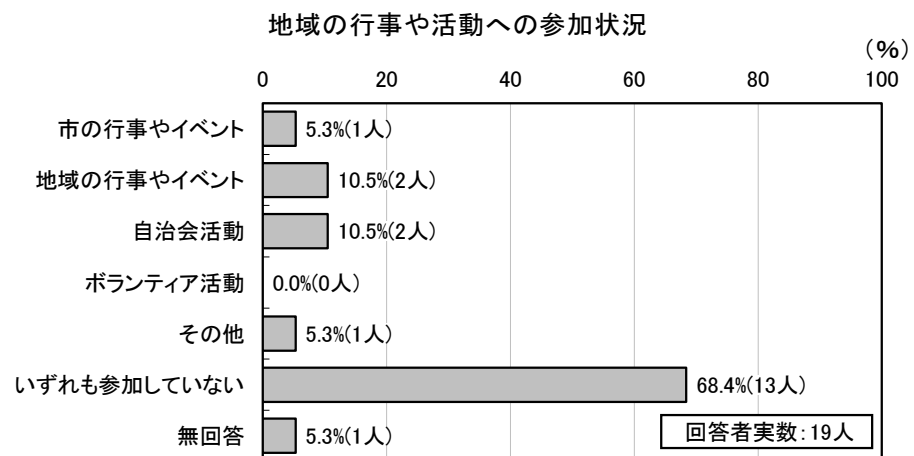
### (1) 親子の近所づきあい（複数回答）

親子の隣近所との付き合いについては、「あいさつする程度」が84.2%（16人）と最も高く、次いで、「ほとんど付き合いはない」が21.1%（4人）と隣近所との付き合いは希薄な家庭が多い状況がうかがえます。



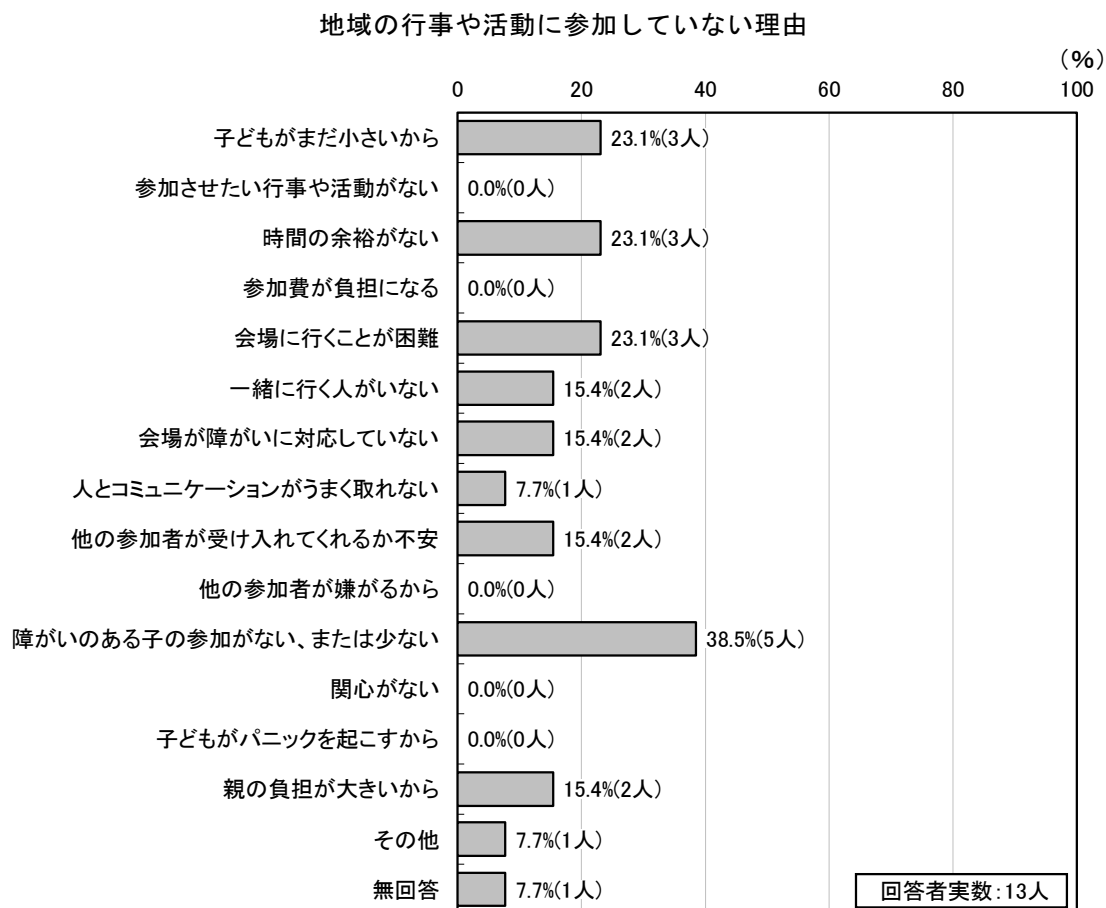
### (2) 地域の行事や活動への参加状況（複数回答）

最近1年間の地域行事や活動への参加については、「いずれも参加していない」が68.4%（13人）となっています。一方、参加した行事や活動では「地域の行事やイベント」と「自治会活動」がともに10.5%（2人）、「市の行事やイベント」、「その他」がそれぞれ5.3%（1人）となっています。



### (3) 地域の行事や活動に参加していない理由（複数回答）

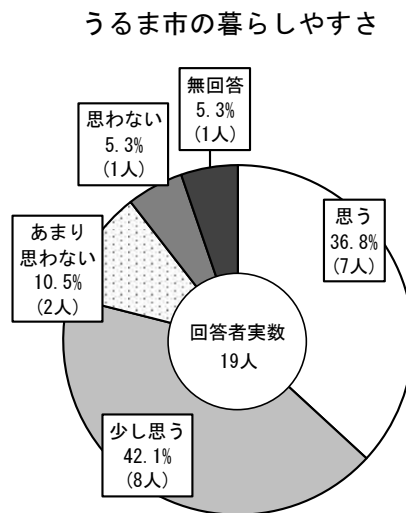
前項で、地域の行事や活動に「いずれも参加していない」と答えた、その理由については、「障がいのある子の参加がない、または少ない」が38.5%（5人）と最も高く、次いで「子どもがまだ小さいから」、「時間の余裕がない」、「会場に行くことが困難」がそれぞれ23.1%（3人）となっています。



#### (4) うるま市の暮らしやすさ

うるま市は暮らしやすいまちと思うかについては、「思う」が36.8% (7人)、「少し思う」が42.1% (8人)であり、これらを合わせると78.9% (15人)の保護者が、程度の差はあるが暮らしやすいと感じています。

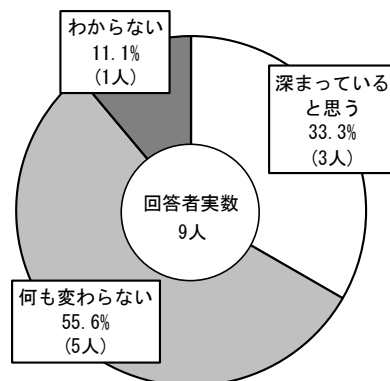
一方、「あまり思わない」が10.5% (2人)、「思わない」が5.3% (1人)となっています。



#### (5) 地域の障がい児に対する理解の深まり

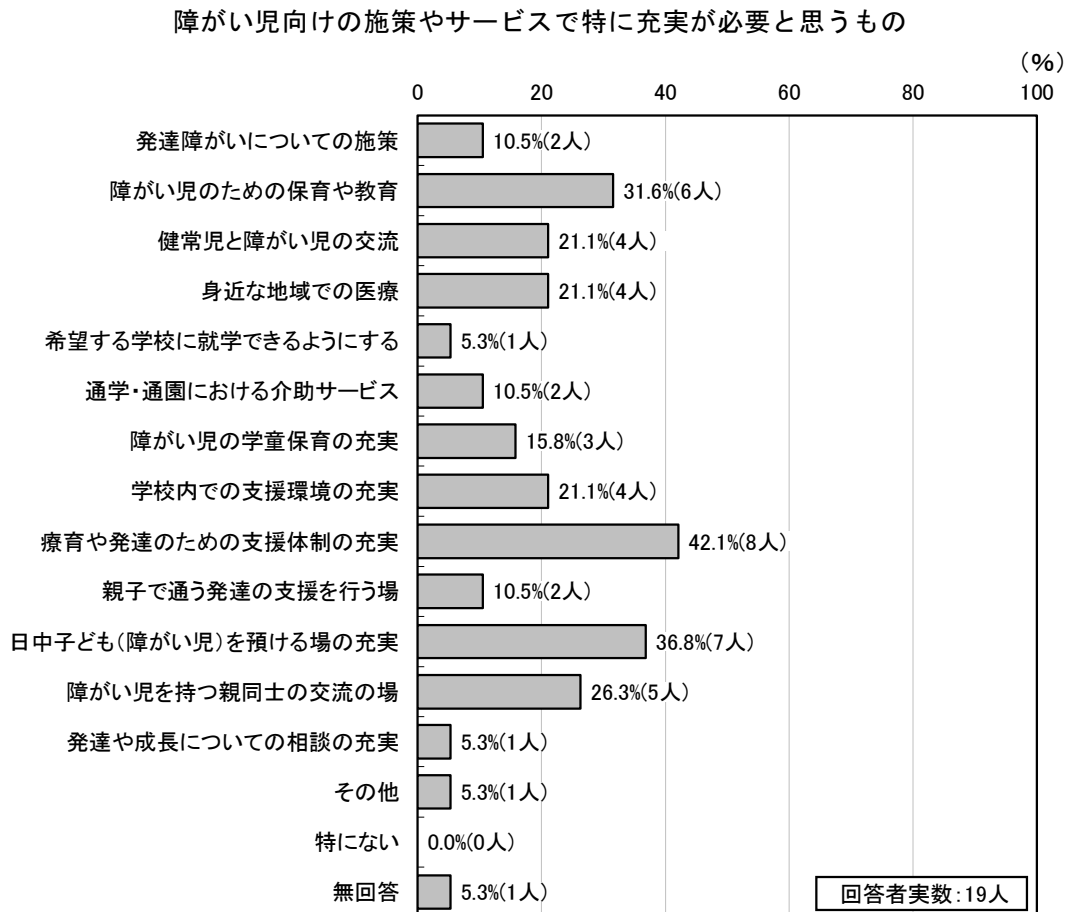
就学後の子どもの保護者に対する質問として、5年前と比べて障がい児に対する、地域の理解・認識は深まっているかについては、「何も変わらない」が55.6% (5人)と高く、次いで「深まっていると思う」が33.3% (3人)、「わからない」が11.1% (1人)となっています。

地域の障がい児に対する理解の深まり



(6) 障がい児向けの施策やサービスで特に充実が必要と思うもの（複数回答）

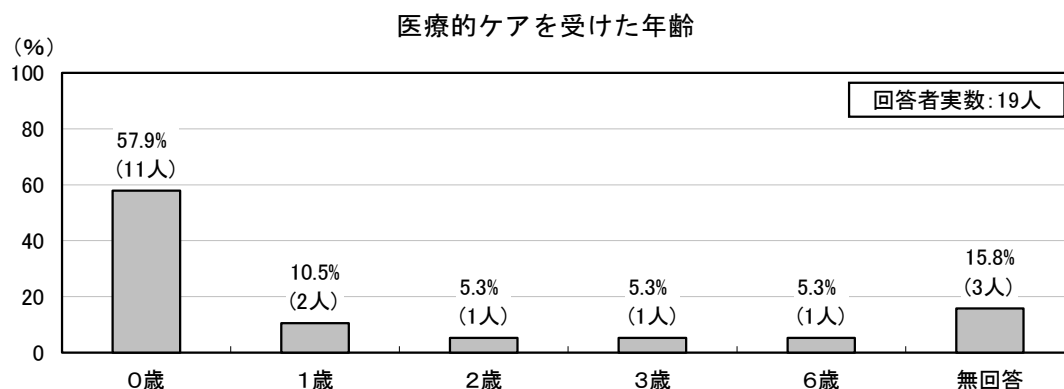
障がい児向けの施策やサービスで特に充実が必要と思うものについては、「療育や発達のための支援体制の充実」が42.1% (8人)と最も高く、次いで「日中子ども(障がい児)を預ける場の充実」が36.8% (7人)、「障がい児のための保育や教育」が31.6% (6人)、「障がい児を持つ親同士の交流の場」が26.3% (5人)となっています。



## 【医療的ケア児への調査】

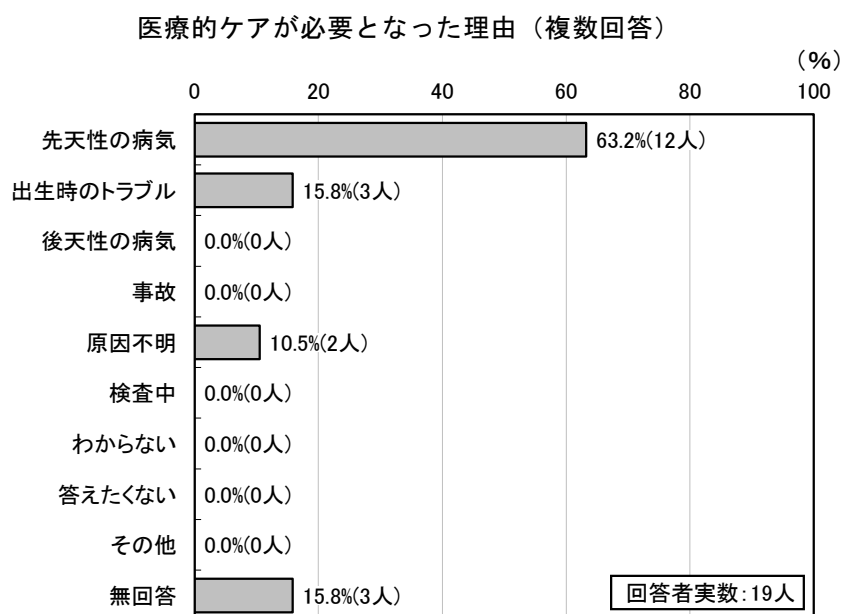
### 1. 医療的ケアを受けた年齢

「0歳」が57.9%(11人)と最も高く、次いで、「1歳」が10.5%(2人)、「2歳」、「3歳」、「6歳」がそれぞれ5.3%(1人)となっています。



### 2. 医療的ケアが必要となった理由

「先天性の病気」が63.2%(12人)と最も高く、次いで、「出生時のトラブル」が15.8%(3人)、「原因不明」が10.5%(2人)となっています。また、「後天性の病気」、「事故」、「検査中」、「わからない」、「答えたくない」の回答はありませんでした。



### 3. 現在、治療中の疾病名

医療的ケア児の現在の治療疾病名としては、以下のような回答がありました。

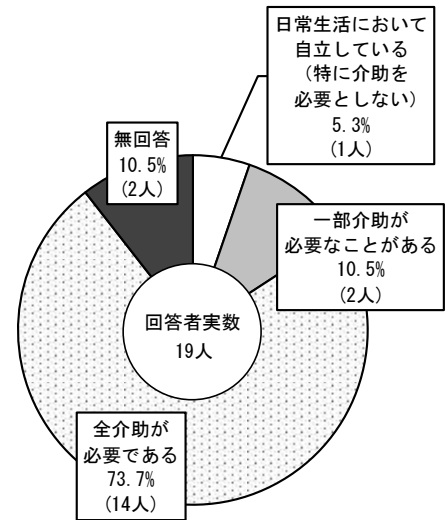
コルネリア・デ・ランゲン症候群
純型肺動脈閉鎖症
右室依存性冠循環による心臓機能障害
先天性水頭症
脊髄髄膜溜術後
排尿排便障がい
神経性膀胱
てんかん
筋ジストロフィー
小脳出血
點頭てんかん
大動脈二尖弁
動脈管開存症カテーテル治療
水頭症
大動脈弓離断症
心房中隔欠損症
心疾患
滑脳症
胃ろう
後鼻腔狭窄
停留精巣
慢性肺疾患
声門下狭窄症



#### 4. お子さんの現在の生活状況

「全介助が必要である」が73.7% (14人)と高く、次いで「一部介助が必要なことがある」が10.5% (2人)、「日常生活において自立している (特に介助を必要としない)」が5.3% (1人)となっています。

現在の生活状況



#### 5. 一部介助が必要なもの

「食事」、「排泄」、「更衣(着替え)」、「入浴」、「移動」の回答がそれぞれ2人となっています。

一部介助が必要なもの

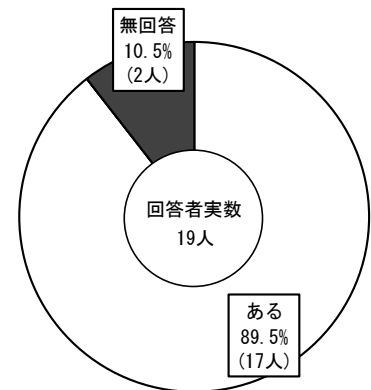
(複数回答)

	人数
食事	2人
排泄	2人
更衣 (着替え)	2人
入浴	2人
移動	2人
回答者実数	2人

## 6. 現在利用しているサービス

「ある」が89.5%(17人)となっています。

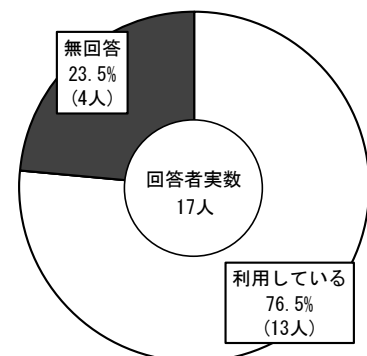
現在利用しているサービス



## 7. 計画相談員の利用有無

「利用している」が76.5%(13人)となっており、「利用していない」の回答はありませんでした。

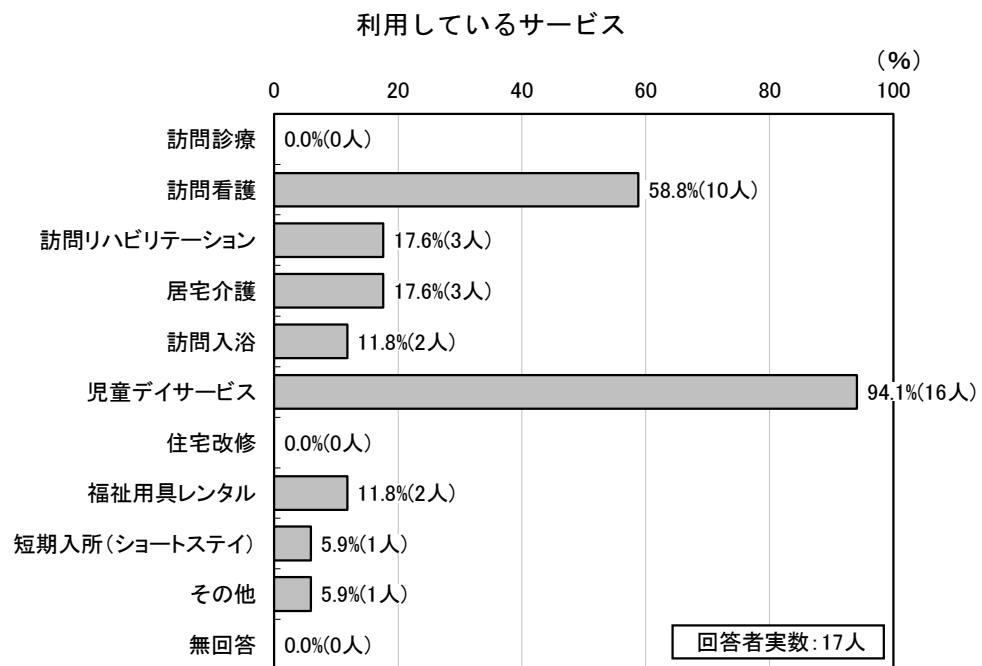
計画相談員の利用



## 8. サービス等の利用状況

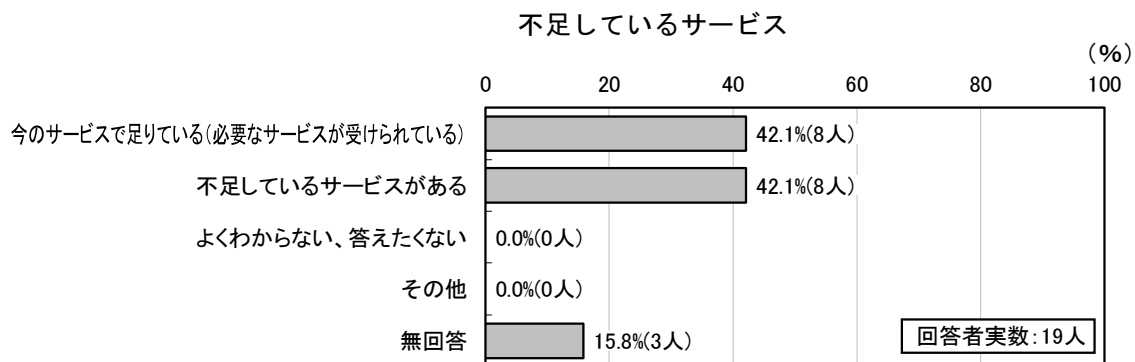
### (1) 利用しているサービス（複数回答）

計画相談員の利用が「ある」と回答した方が利用しているサービスについては、「児童デイサービス（放課後等デイサービス+児童発達支援）」が94.1%（16人）と最も高く、次いで「訪問看護」が58.8%（10人）、「訪問リハビリテーション」、「居宅介護」がともに17.6%（3人）、「訪問入浴」、「福祉用具レンタル」がそれぞれ11.8%（2人）、「短期入所（ショートステイ）」、「その他」が5.9%（1人）となっています。また、「訪問診療」、「住宅改修」の回答はありませんでした。

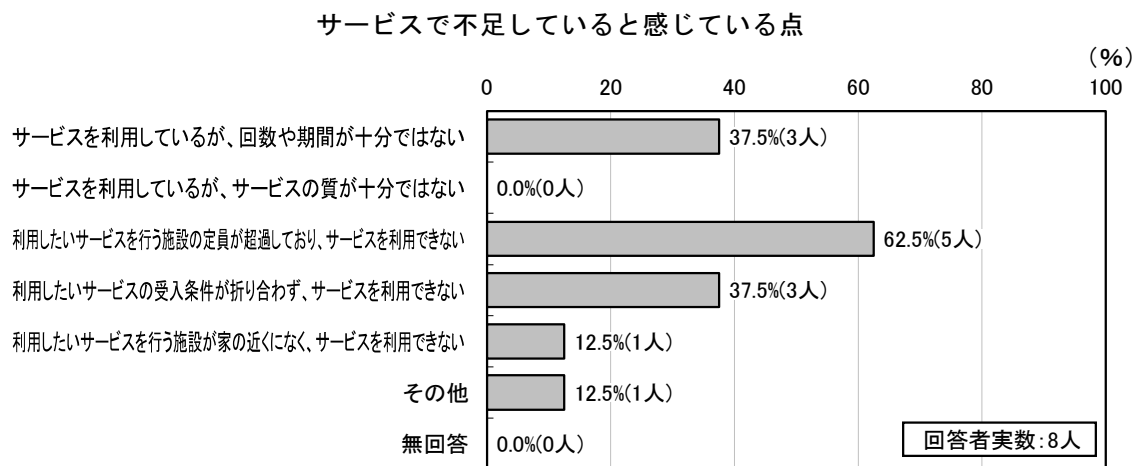


## (2) 不足しているサービス

サービス利用の有無にかかわらず、必要だが不足を感じているサービスがあるかについては、「今のサービスで足りている(必要なサービスが受けられている)」と「不足しているサービスがある」がともに42.1%(8人)となっています。

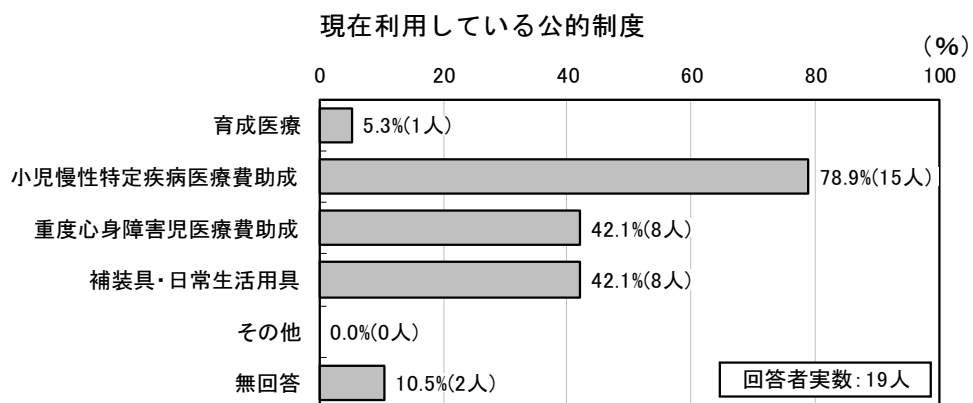


また、不足しているサービスについて、どのような点が不足していると感じるかについては、「利用したいサービスを行う施設の定員が超過しており、サービスを利用できない」が62.5%(5人)と最も高く、次いで「サービスを利用しているが、回数や期間が十分ではない」と「利用したいサービスの受入条件が折り合わず、サービスを利用できない」がともに37.5%(3人)、「利用したいサービスを行う施設が家の近くになく、サービスを利用できない」と「その他」が12.5%(1人)となっています。



### (3) 現在利用している公的制度（複数回答）

障害福祉サービス以外で利用している公的制度としては、「小児慢性特定疾病医療費助成」が78.9% (15人)と最も高く、次いで、「重度心身障害児医療費助成」、「補装具・日常生活用具」がともに42.1% (8人)、「育成医療」が5.3% (1人)となっています。

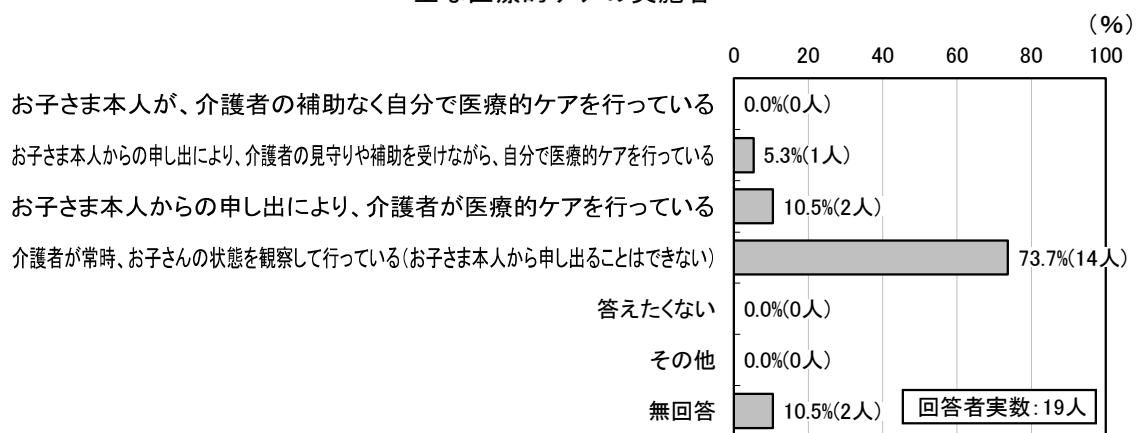


## 9. 医療的ケアの実施者の状況について

### (1) 主な医療的ケアの実施者

主な医療的ケアの実施者については、「介護者が常時、お子さんの状態を観察して行っている(お子さま本人から申し出ることにはできない)」が73.7%(14人)と最も高く、次いで「お子さま本人からの申し出により、介護者が医療的ケアを行っている」が10.5%(2人)、「決まった時間の声掛けや、お子さま本人からの申し出により医療的ケアの実施時に、介護者の見守りや補助を受けながら、お子さまが自分で医療的ケアを行っている」が5.3%(1人)となっています。また、「お子さま本人が、介護者の補助なく自分で医療的ケアを行っている」、「答えたくない」の回答はありませんでした。

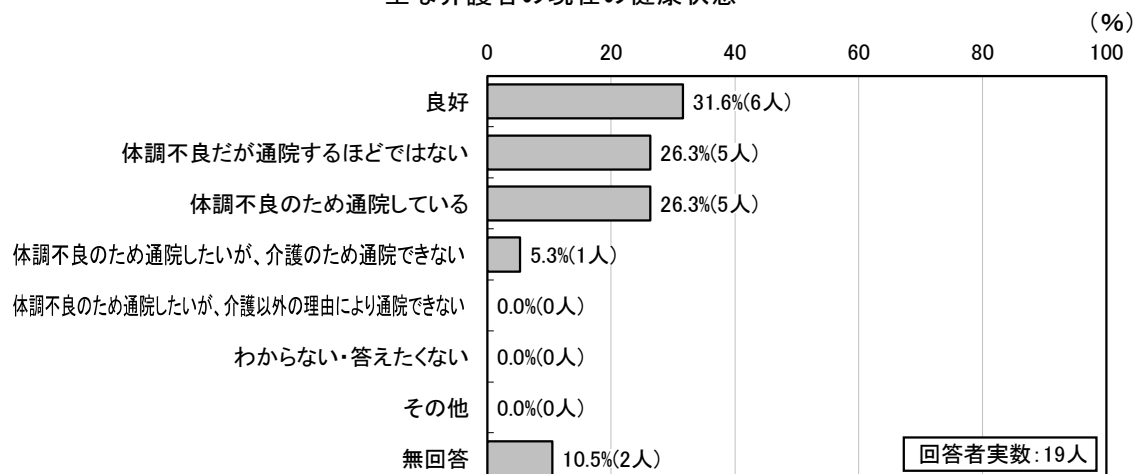
主な医療的ケアの実施者



### (2) 主な介護者の現在の健康状況

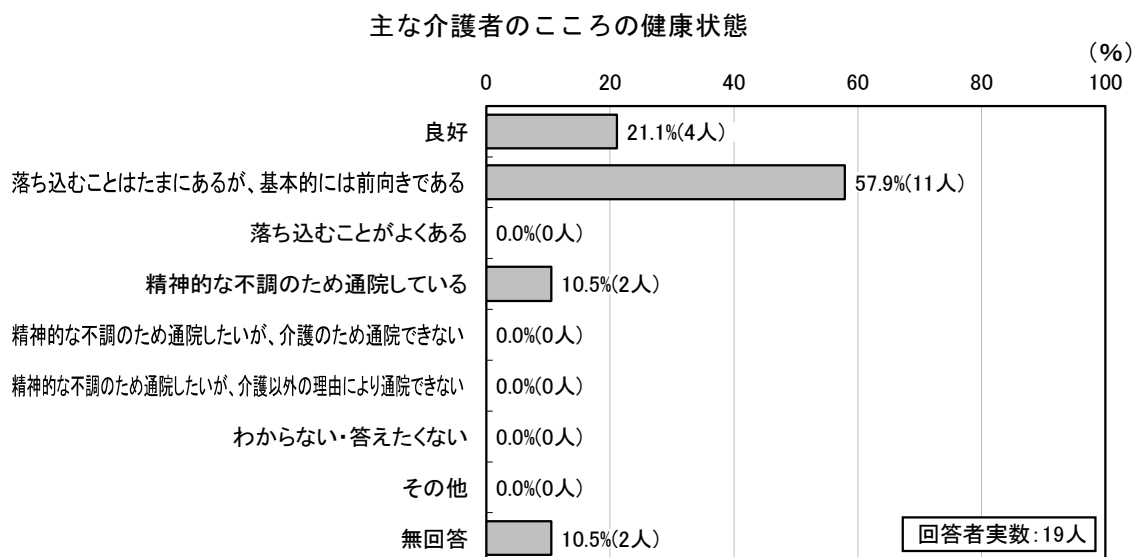
主な介護者の現在の健康状況については、「良好」が31.6%(6人)と高く、次いで「体調不良だが通院するほどではない」と「体調不良のため通院している」がそれぞれ26.3%(5人)、「体調不良のため通院したいが、介護のため通院できない」が5.3%(1人)となっています。また、「体調不良のため通院したいが、介護以外の理由により通院できない」、「わからない・答えたくない」の回答はありませんでした。

主な介護者の現在の健康状態



### (3) 主な介護者のこころの健康状況

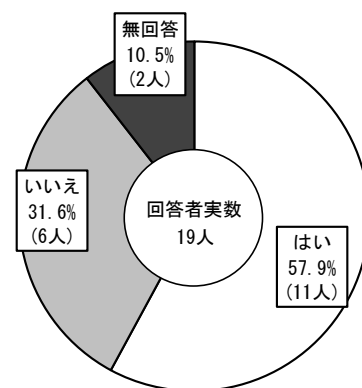
主な介護者のこころの健康状況については、「落ち込むことはたまにあるが、基本的には前向きである」が57.9% (11人)と最も高く、次いで「良好」が21.1% (4人)、「精神的な不調のため通院している」が10.5% (2人)となっています。また、「落ち込むことがよくある」、「精神的な不調のため通院したいが、介護のため通院できない」、「精神的な不調のため通院したいが、介護以外の理由により通院できない」、「わからない・答えたくない」の回答はありませんでした。



### (4) 主な介護者の休息について

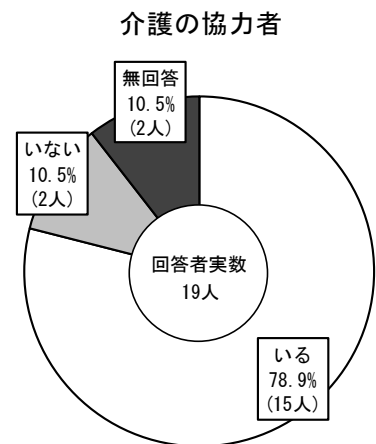
介護者が休息を取れているかについては、「はい」が57.9% (11人)、「いいえ」が31.6% (6人)となっています。

主な介護者の休息は取れているか

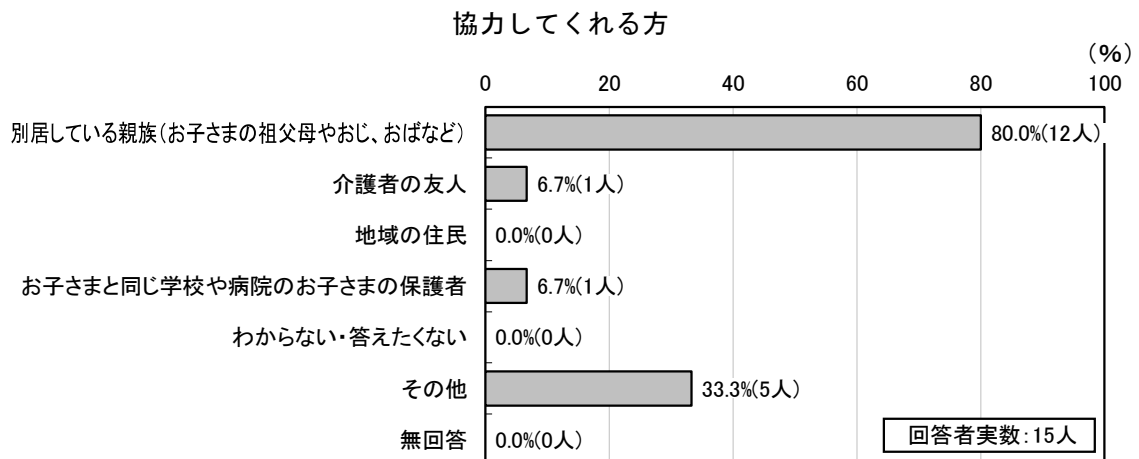


### (5) 介護の協力者について

介護者が困ったときや疲れているときの協力者については、「いる」が78.9%(15人)、「いない」が10.5%(2人)となっています。



また、協力者については、「別居している親族(お子さまの祖父母やおじ、おばなど)」が80.0%(12人)と最も高く、次いで「その他」が33.3%(5人)、「介護者の友人」と「お子さまと同じ学校や病院のお子さまの保護者」が6.7%(1人)となっています。また、「地域の住民」、「わからない・答えたくない」の回答はありませんでした。

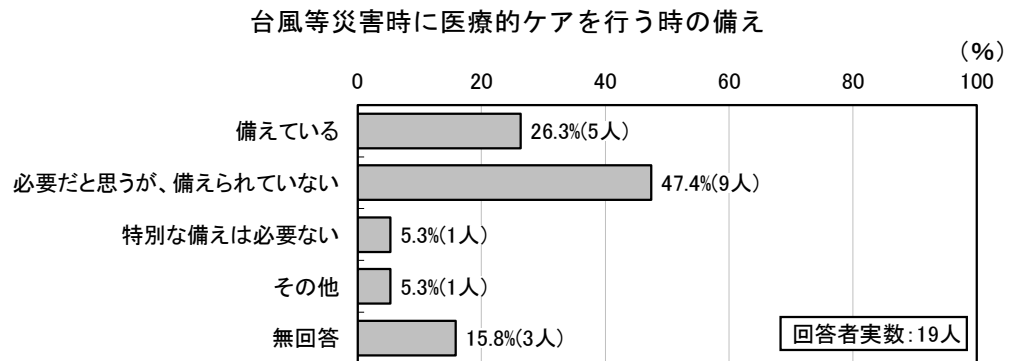




## 10. 災害への備えについて

### (1) 台風等災害時の備えについて

台風等災害時に医療的ケアを行うにあたって、何か備えているかについては、「必要だと思うが、備えられていない」が47.4%(9人)と最も高く、次いで「備えている」が26.3%(5人)、「特別な備えは必要ない」が5.3%(1人)となっています。



### (2) 避難訓練への参加について

地域もしくは学校での避難訓練へ参加については、参加したことが「ある」と「参加したかったが都合により参加できなかった」が26.3%(5人)となっているほか、「その他」が31.6%(6人)となっています。また、「参加したかったが参加を断られた」、「避難訓練は必要ない」の回答はありませんでした。

